

3. 2 制度の利用者など特定の層を調査対象とした個別事業評価

制度の利用者など特定の層を調査対象とした個別事業評価については、テーマごとの調査票で調査を実施した。調査対象、回収率、回答者の属性については、各テーマの調査結果に記載する。

3. 2. 1 若い世代のチャレンジについて

(企画部総合政策課)

- ◆ **調査目的：** 大仙市の人口は、昭和 30 年の約 12 万 3 千人をピークに年間約 1 千人のペースで減少している。国立社会保障・人口問題研究所が行った将来人口の推計では、令和 27 年には 4 万 8 千人になるものと推計されており、人口減少に伴い産業や地域経済の衰退、地域コミュニティの維持が困難となるなど、多方面への影響が懸念されている。

こうした状況を踏まえ、市では令和 2 年 3 月に「第 2 期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「人口減少の抑制」と「地方創生の実現」に向け様々な施策に取り組んでいる。その施策のひとつとして、「若者がチャレンジできる環境づくり」を進めており、若い世代の夢を叶える創業支援の推進や新規就農者の育成、雇用促進等を図るとともに、地域の課題解決や活性化に向けた市民活動を応援する地域枠予算の確保、出会い・結婚・出産・子育てまで切れ目のない一貫した支援体制の構築などに取り組んでいる。

本調査では、若い世代の皆さんからご意見を伺い、夢や希望の実現に向けてチャレンジする若い世代の皆さんを応援する具体的な方法を検討するための参考とする。

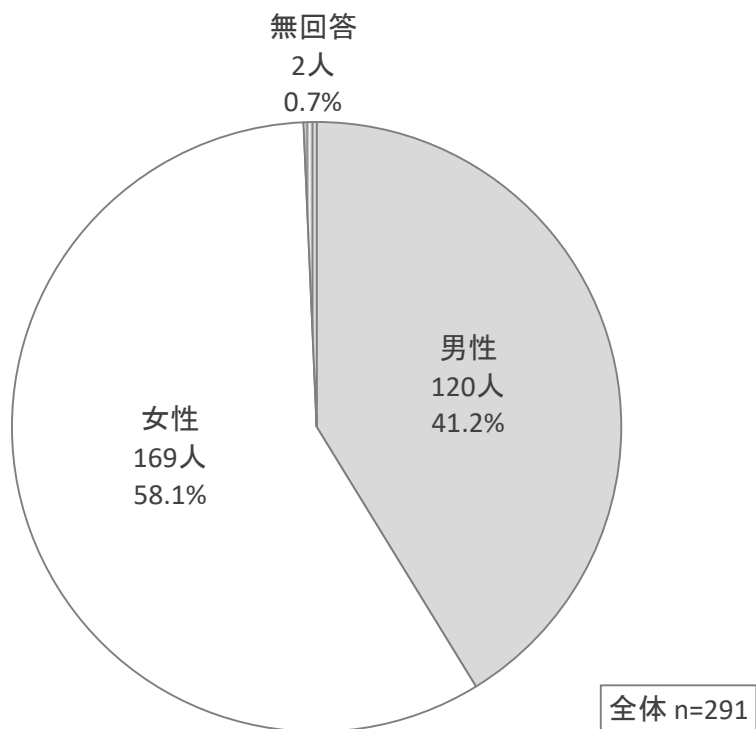
- ◆ **調査対象：** 市内在住で 18 歳以上 40 歳未満の市民の中から無作為に抽出した 800 人（性別、年齢、地域については考慮）

- ◆ **回収数・回収率**

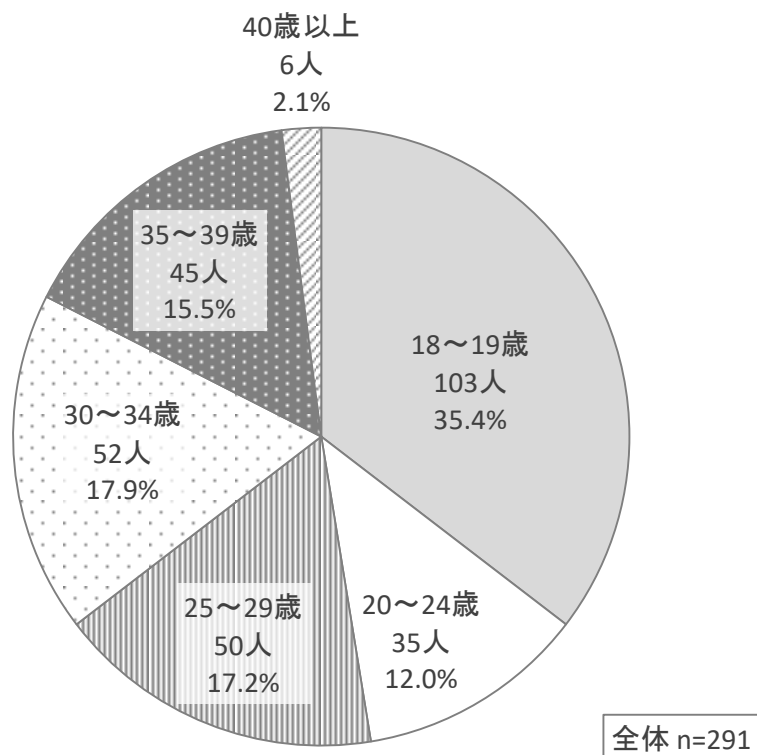
調査票		送付数	回収数			回収率	
個別事業評価（分類B）		800 人	291 人			36.4%	
内 訳	①郵送または インターネット	400 人	176 人			44.0%	
			内 訳	回答方法	回収数		割合
				郵送	102 人		58.0%
		ネット	74 人	42.0%			
	②インターネットのみ	400 人	115 人			28.8%	

回答者の属性

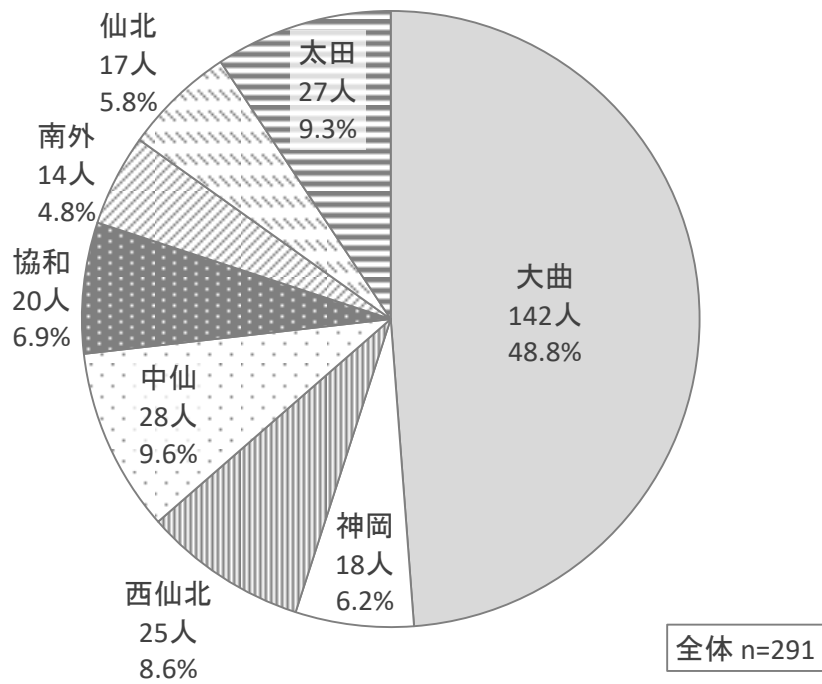
■性別



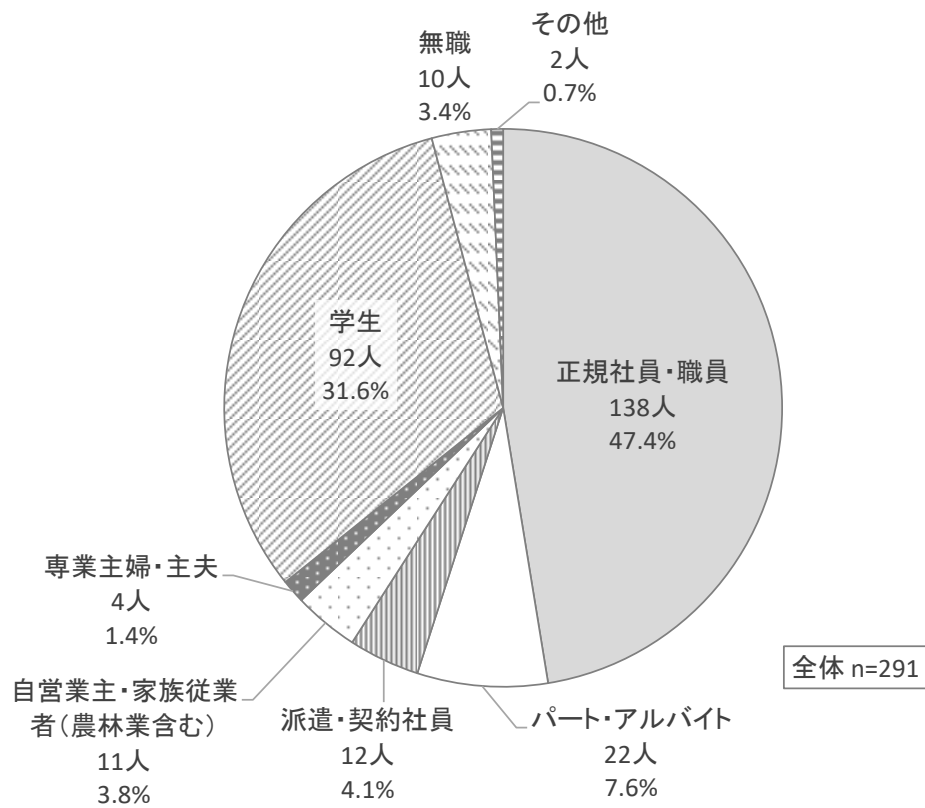
■年齢層



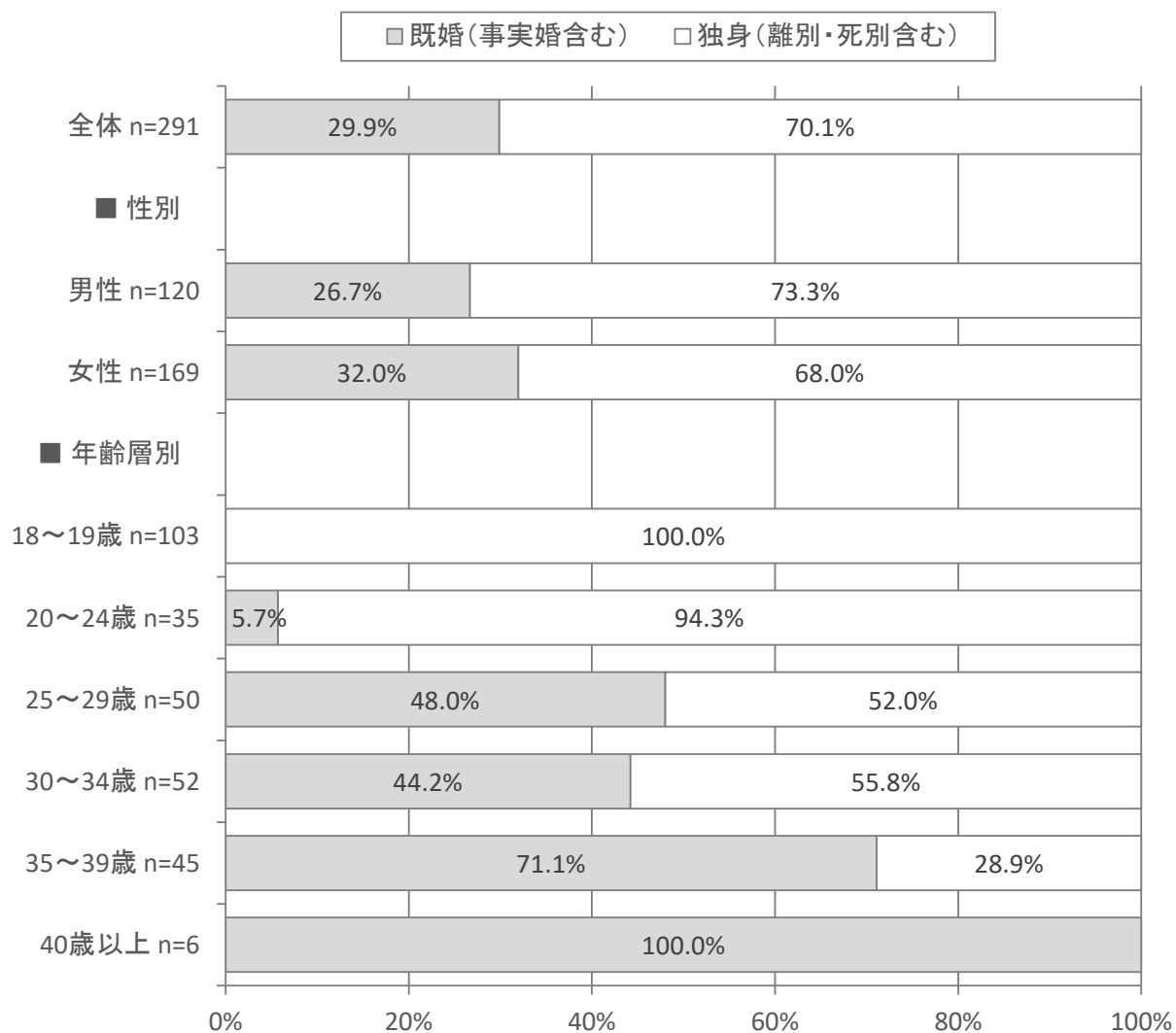
■地域



■職業



■結婚



【問6】あなたは、次の項目について、日常生活でどのくらい満足していますか。

また、どのくらい大切（重要）であるとお考えですか。

【満足度】

- 全体では、満足度の高い項目は、上位から「夢や目標の実現」が3.02、「経済的な豊かさ」が3.01、「趣味などの余暇の時間」が2.97の順となっている。
一方、満足度の低い項目は、下位から「家族とのふれあい」が2.65、「身近な人との付き合い」が2.78、「社会的地位や評価」が2.84の順となっている。
- 性別で見ると、満足度は男性が女性より高くなっており、男性では「経済的な豊かさ」「スポーツ・健康づくり」「仕事や勉強」「社会的地位や評価」、女性では「趣味などの余暇の時間」「社会（地域）貢献活動」「身近な人との付き合い」が異性よりも上位に挙がっている。
- 年齢層別で見ると、満足度は18～19歳が他の年齢層より低くなっている。「社会（地域）貢献活動」は年齢層が下がるにつれて順位が高くなっており、18～19歳では最も高くなっている。20～24歳以下では「スポーツ・健康づくり」、25～29歳以上では「経済的な豊かさ」「趣味などの余暇の時間」が上位に挙がっている。また、「家族とのふれあい」は、全ての年齢層で下位に挙がっており、20～24歳以上では、全ての年齢層で最も低くなっている。
- 結婚別で見ると、満足度は既婚者が独身者より高くなっている。既婚者では「経済的な豊かさ」「趣味などの余暇の時間」、独身者では「夢や目標の実現」「社会（地域）貢献活動」が上位となっている。

■全体

順位	項目	満足度
1	夢や目標の実現	3.02
2	経済的な豊かさ	3.01
3	趣味などの余暇の時間	2.97
4	スポーツ・健康づくり	2.92
5	社会（地域）貢献活動	2.91
6	仕事や勉強	2.88
7	社会的地位や評価	2.84
8	身近な人との付き合い	2.78
9	家族とのふれあい	2.65

■性別

男性

順位	項目	満足度
1	経済的な豊かさ	3.07
2	夢や目標の実現	3.05
3	スポーツ・健康づくり	3.04
	仕事や勉強	3.04
5	社会的地位や評価	2.89
6	趣味などの余暇の時間	2.88
7	社会（地域）貢献活動	2.87
8	身近な人との付き合い	2.77
9	家族とのふれあい	2.68

女性

順位	項目	満足度
1	趣味などの余暇の時間	3.02
2	夢や目標の実現	3.00
3	経済的な豊かさ	2.98
4	社会（地域）貢献活動	2.93
5	スポーツ・健康づくり	2.84
6	社会的地位や評価	2.81
7	身近な人との付き合い	2.79
8	仕事や勉強	2.76
9	家族とのふれあい	2.62

■年齢層別

18～19歳

順位	項目	満足度
1	社会(地域)貢献活動	2.88
2	夢や目標の実現	2.86
3	スポーツ・健康づくり	2.80
4	経済的な豊かさ	2.74
5	趣味などの余暇の時間	2.68
6	社会的地位や評価	2.67
	仕事や勉強	2.67
8	家族とのふれあい	2.54
9	身近な人との付き合い	2.52

20～24歳

順位	項目	満足度
1	スポーツ・健康づくり	3.21
2	夢や目標の実現	3.09
	仕事や勉強	3.09
4	趣味などの余暇の時間	3.00
	社会(地域)貢献活動	3.00
6	経済的な豊かさ	2.94
7	身近な人との付き合い	2.91
8	社会的地位や評価	2.89
9	家族とのふれあい	2.86

25～29歳

順位	項目	満足度
1	経済的な豊かさ	3.20
2	夢や目標の実現	3.06
3	趣味などの余暇の時間	3.02
4	身近な人との付き合い	2.88
5	社会(地域)貢献活動	2.86
6	スポーツ・健康づくり	2.82
7	社会的地位や評価	2.80
	仕事や勉強	2.80
9	家族とのふれあい	2.70

30～34歳

順位	項目	満足度
1	趣味などの余暇の時間	3.31
2	経済的な豊かさ	3.29
3	夢や目標の実現	3.21
4	仕事や勉強	3.08
5	スポーツ・健康づくり	3.02
	身近な人との付き合い	3.02
7	社会(地域)貢献活動	3.00
	社会的地位や評価	3.00
9	家族とのふれあい	2.59

35～39歳

順位	項目	満足度
1	経済的な豊かさ	3.16
2	夢や目標の実現	3.07
3	趣味などの余暇の時間	3.02
4	社会的地位や評価	3.00
	仕事や勉強	3.00
6	スポーツ・健康づくり	2.95
7	社会(地域)貢献活動	2.82
8	身近な人との付き合い	2.71
9	家族とのふれあい	2.58

■結婚別

既婚

順位	項目	満足度
1	経済的な豊かさ	3.25
2	趣味などの余暇の時間	3.22
3	夢や目標の実現	3.08
4	スポーツ・健康づくり	3.05
5	仕事や勉強	2.98
6	社会的地位や評価	2.94
7	身近な人との付き合い	2.86
8	社会(地域)貢献活動	2.84
9	家族とのふれあい	2.62

独身

順位	項目	満足度
1	夢や目標の実現	3.00
2	社会(地域)貢献活動	2.94
3	経済的な豊かさ	2.91
4	スポーツ・健康づくり	2.87
5	趣味などの余暇の時間	2.86
6	仕事や勉強	2.84
7	社会的地位や評価	2.80
8	身近な人との付き合い	2.74
9	家族とのふれあい	2.66

【重要度】

- 全体では、重要度の高い項目は、上位から「社会的地位や評価」が2.94、「社会（地域）貢献活動」が2.87、「スポーツ・健康づくり」が2.69の順となっている。
- 一方、重要度の低い項目は、下位から「趣味などの余暇の時間」が2.38、「経済的な豊かさ」が2.53、「家族とのふれあい」が2.57の順となっている。
- 性別で見ると、重要度は女性が男性より高くなっており、男性では「社会（地域）貢献活動」「仕事や勉強」「家族とのふれあい」、女性では「社会的地位や評価」「スポーツ・健康づくり」「夢や目標の実現」が異性よりも上位に挙がっている。
- 年齢層別で見ると、全ての年齢層で「社会的地位や評価」「社会（地域）貢献活動」が1，2番目に高くなっている。また、「経済的な豊かさ」は18～19歳、「家族とのふれあい」は25～29歳以下、「身近な人との付き合い」「夢や目標の実現」は25～29歳以上で他の年齢層よりも上位に挙がっている。
- 結婚別で見ると、重要度は独身者が既婚者より高く、順位は概ね同様の傾向となっているが、既婚者では「身近な人との付き合い」、独身者では「家族とのふれあい」が、それぞれ独身者または既婚者よりも比較的高い順位となっている。

■全体

順位	項目	重要度
1	社会的地位や評価	2.94
2	社会(地域)貢献活動	2.87
3	スポーツ・健康づくり	2.69
4	身近な人との付き合い	2.67
5	仕事や勉強	2.64
6	夢や目標の実現	2.60
7	家族とのふれあい	2.57
8	経済的な豊かさ	2.53
9	趣味などの余暇の時間	2.38

■性別

男性

順位	項目	重要度
1	社会(地域)貢献活動	2.89
2	社会的地位や評価	2.88
3	仕事や勉強	2.68
4	身近な人との付き合い	2.64
5	家族とのふれあい	2.60
6	夢や目標の実現	2.57
7	スポーツ・健康づくり	2.56
8	経済的な豊かさ	2.55
9	趣味などの余暇の時間	2.31

女性

順位	項目	重要度
1	社会的地位や評価	2.99
2	社会(地域)貢献活動	2.86
3	スポーツ・健康づくり	2.79
4	身近な人との付き合い	2.70
5	夢や目標の実現	2.62
	仕事や勉強	2.62
7	家族とのふれあい	2.54
8	経済的な豊かさ	2.52
9	趣味などの余暇の時間	2.43

■年齢層別

18～19歳

順位	項目	重要度
1	社会的地位や評価	2.96
2	社会(地域)貢献活動	2.79
3	経済的な豊かさ	2.66
4	スポーツ・健康づくり	2.64
5	家族とのふれあい	2.57
6	仕事や勉強	2.54
7	身近な人との付き合い	2.53
8	夢や目標の実現	2.50
9	趣味などの余暇の時間	2.41

20～24歳

順位	項目	重要度
1	社会的地位や評価	3.15
2	社会(地域)貢献活動	3.03
3	仕事や勉強	2.94
4	スポーツ・健康づくり	2.91
5	家族とのふれあい	2.85
	経済的な豊かさ	2.85
7	趣味などの余暇の時間	2.82
8	身近な人との付き合い	2.79
9	夢や目標の実現	2.73

25～29歳

順位	項目	重要度
1	社会的地位や評価	3.02
2	社会(地域)貢献活動	2.86
3	身近な人との付き合い	2.68
4	スポーツ・健康づくり	2.62
	夢や目標の実現	2.62
6	家族とのふれあい	2.54
7	仕事や勉強	2.52
8	趣味などの余暇の時間	2.24
9	経済的な豊かさ	2.22

30～34歳

順位	項目	重要度
1	社会(地域)貢献活動	2.96
2	社会的地位や評価	2.78
3	スポーツ・健康づくり	2.71
	身近な人との付き合い	2.71
5	夢や目標の実現	2.63
6	仕事や勉強	2.57
7	経済的な豊かさ	2.35
8	家族とのふれあい	2.31
9	趣味などの余暇の時間	2.20

35～39歳

順位	項目	重要度
1	社会(地域)貢献活動	2.82
	社会的地位や評価	2.82
3	仕事や勉強	2.80
4	身近な人との付き合い	2.73
5	スポーツ・健康づくり	2.67
6	夢や目標の実現	2.59
7	家族とのふれあい	2.56
8	経済的な豊かさ	2.40
9	趣味などの余暇の時間	2.38

■結婚別

既婚

順位	項目	重要度
1	社会的地位や評価	2.83
2	身近な人との付き合い	2.76
	社会(地域)貢献活動	2.76
4	スポーツ・健康づくり	2.70
5	仕事や勉強	2.66
6	夢や目標の実現	2.53
7	経済的な豊かさ	2.42
8	家族とのふれあい	2.40
9	趣味などの余暇の時間	2.25

独身

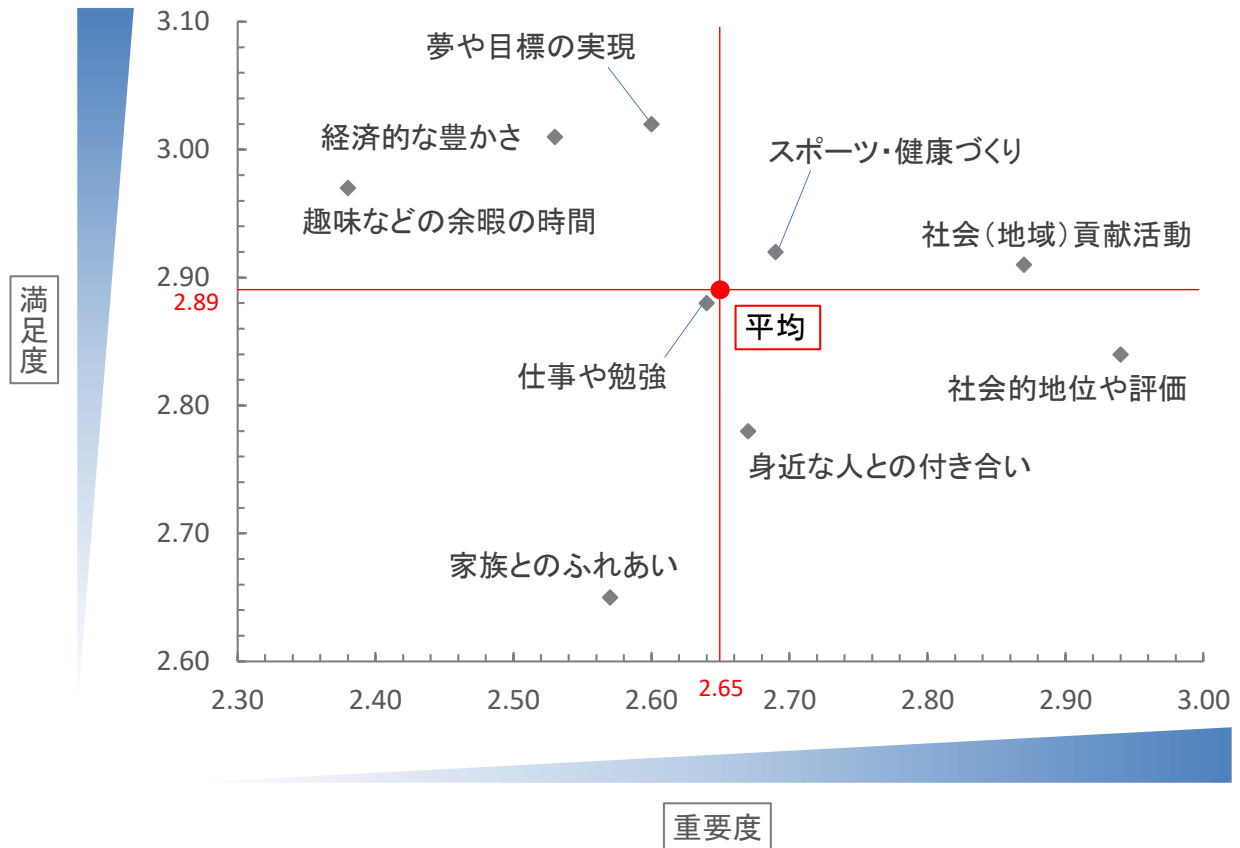
順位	項目	重要度
1	社会的地位や評価	2.99
2	社会(地域)貢献活動	2.91
3	スポーツ・健康づくり	2.69
4	家族とのふれあい	2.64
	身近な人との付き合い	2.64
	仕事や勉強	2.64
7	夢や目標の実現	2.63
8	経済的な豊かさ	2.58
9	趣味などの余暇の時間	2.44

【満足度と重要度】

満足度、重要度の総括として、満足度を縦軸、重要度を横軸とした散布図を作成した。

図の右下にある項目ほど、重要度が高く満足度が低い項目となっており、今の日常生活でより必要としている項目と考えられる。

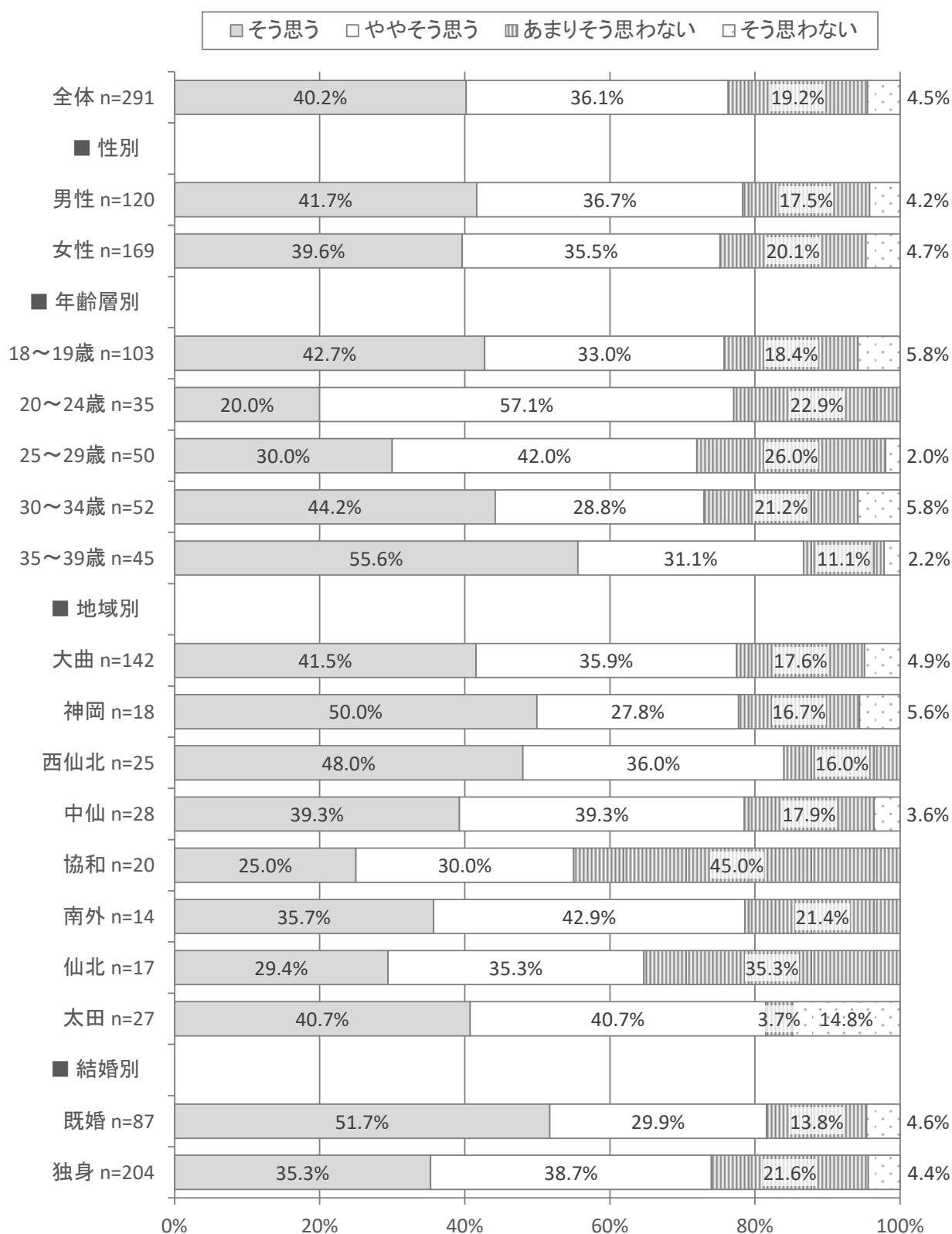
満足度、重要度の結果から相対的に今の日常生活で最も必要としている項目は「社会的地位や評価」となっている。



【問7】あなたは、今後も大仙市に住み続けたいと思いますか。

- 全体では、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は 76.3%となっており、8割近くの方が住み続けたいと回答している。
- 性別で見ると、全体と同様の傾向となっており、大きな差異は見られない。
- 年齢層別で見ると、「そう思う」の割合は、35～39歳が 55.6%で最も高くなっており、20～24歳までは年齢層が下がるにつれて減少しているが、18～19歳では大きく増加している。また、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、18～19歳から 30～34歳までは大きな差異はないが、35～39歳では大きく増加し、86.7%となっている。
- 地域別で見ると、「そう思う」の割合と、さらに「ややそう思う」を合わせた割合は、どちらも協和・仙北地域で低くなっている。協和・仙北地域以外については、「そう思う」の割合に多少の差異はあるが、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合には大きな差異は見られない。

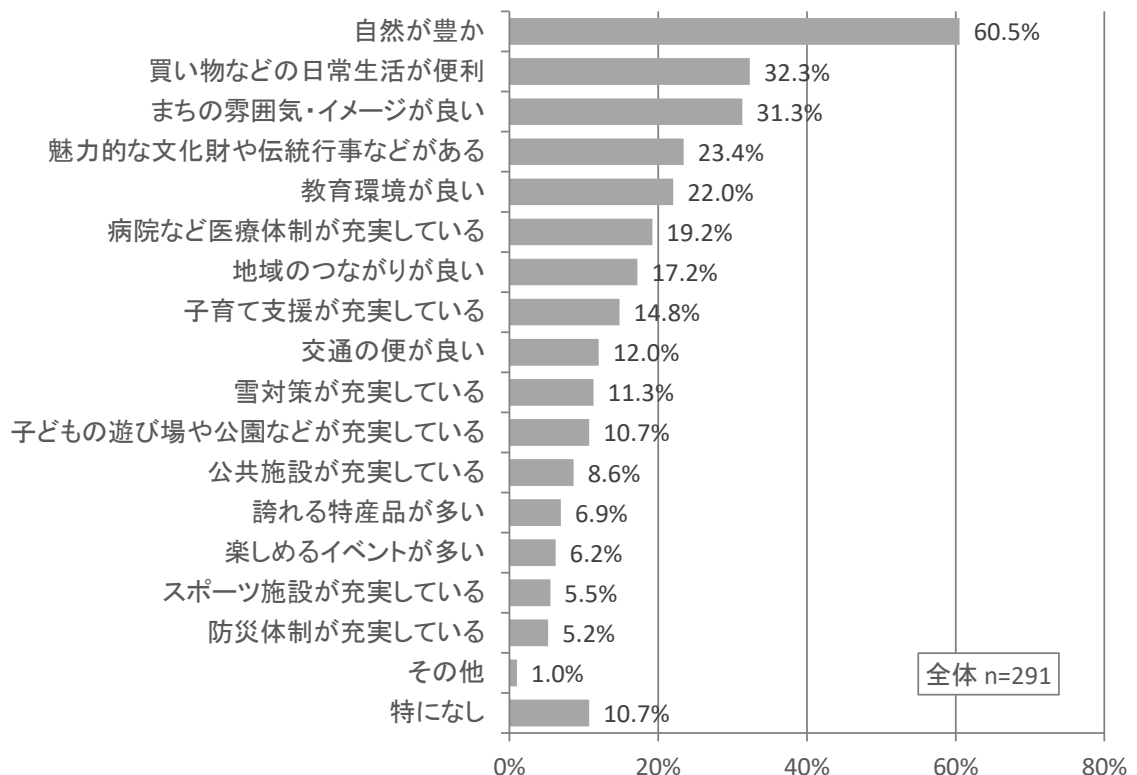
○ 結婚別で見ると、「そう思う」の割合と、さらに「ややそう思う」を合わせた割合は、どちらも既婚者が独身者より高いが、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は7.6ポイントの差であるのに対して、「そう思う」の割合は16.4ポイントの差があり、大きくなっている。



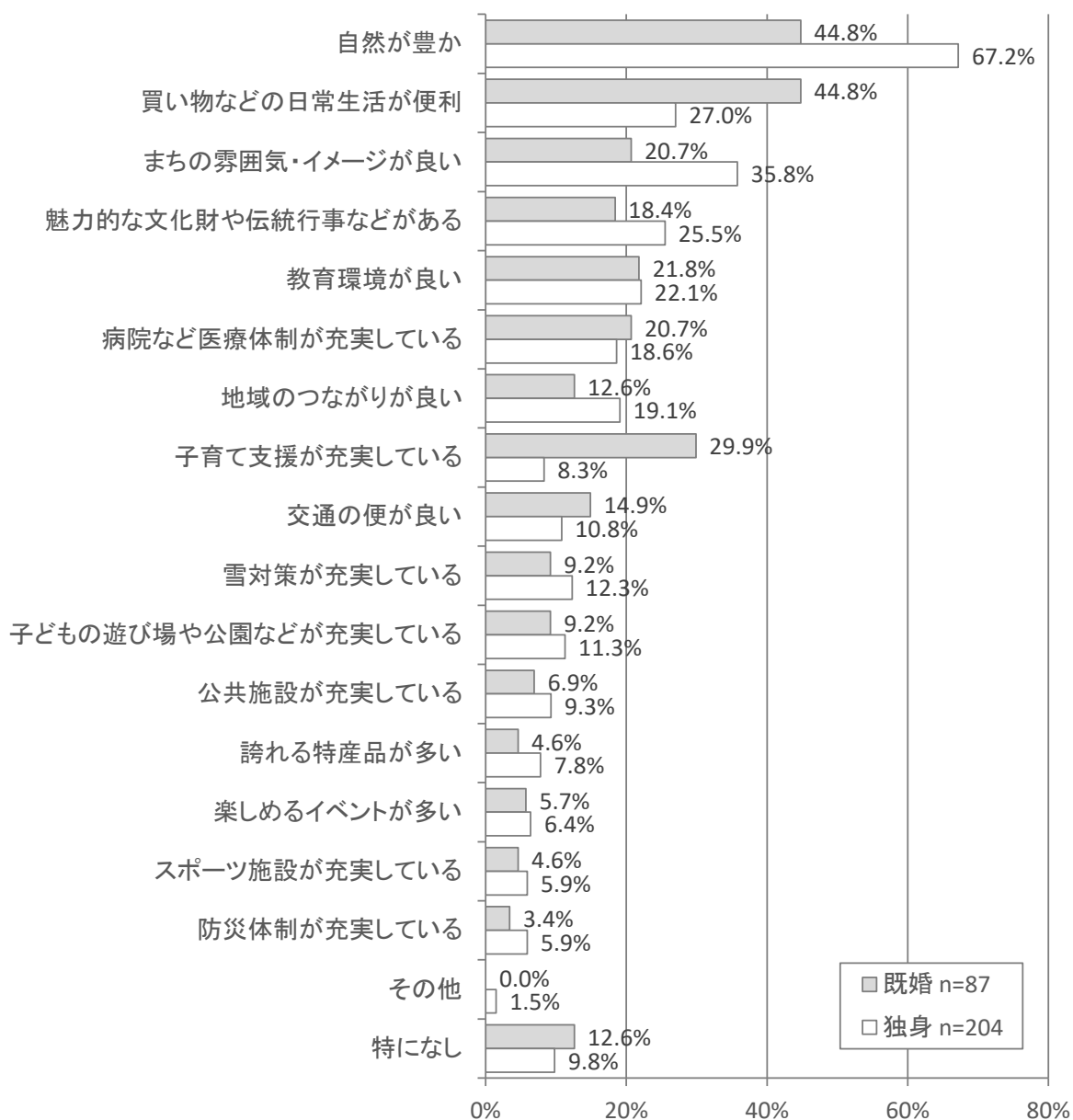
【問 8】あなたは、大仙市に住んでいてよかったと思うことがありますか。（複数選択可）

- 全体では、「自然が豊か」の割合が 60.5%で突出しており、次いで「買い物などの日常生活が便利」が 32.3%、「まちの雰囲気・イメージが良い」が 31.3%となっている。
- 結婚別で見ると、既婚者では「自然が豊か」と「買い物などの日常生活が便利」の割合が同率で最も高く、次いで「子育て支援が充実している」の割合が高くなっており、「買い物などの日常生活が便利」「子育て支援が充実している」は独身者との差が大きくなっている。
また、独身者では「自然が豊か」の割合が突出しており、次いで、「まちの雰囲気・イメージが良い」の割合が高く、どちらも既婚者との差が大きくなっている。
- 問 7 の住み続けたいかに対する回答別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方より「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方が全体的に回答割合が高くなっており、「買い物などの日常生活が便利」「まちの雰囲気・イメージが良い」「子育て支援が充実している」「子どもの遊び場や公園などが充実している」「スポーツ施設が充実している」では特に差が大きくなっている。
また、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方では、「誇れる特産品が多い」「防災体制が充実している」「特になし」の割合が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方より高くなっている。

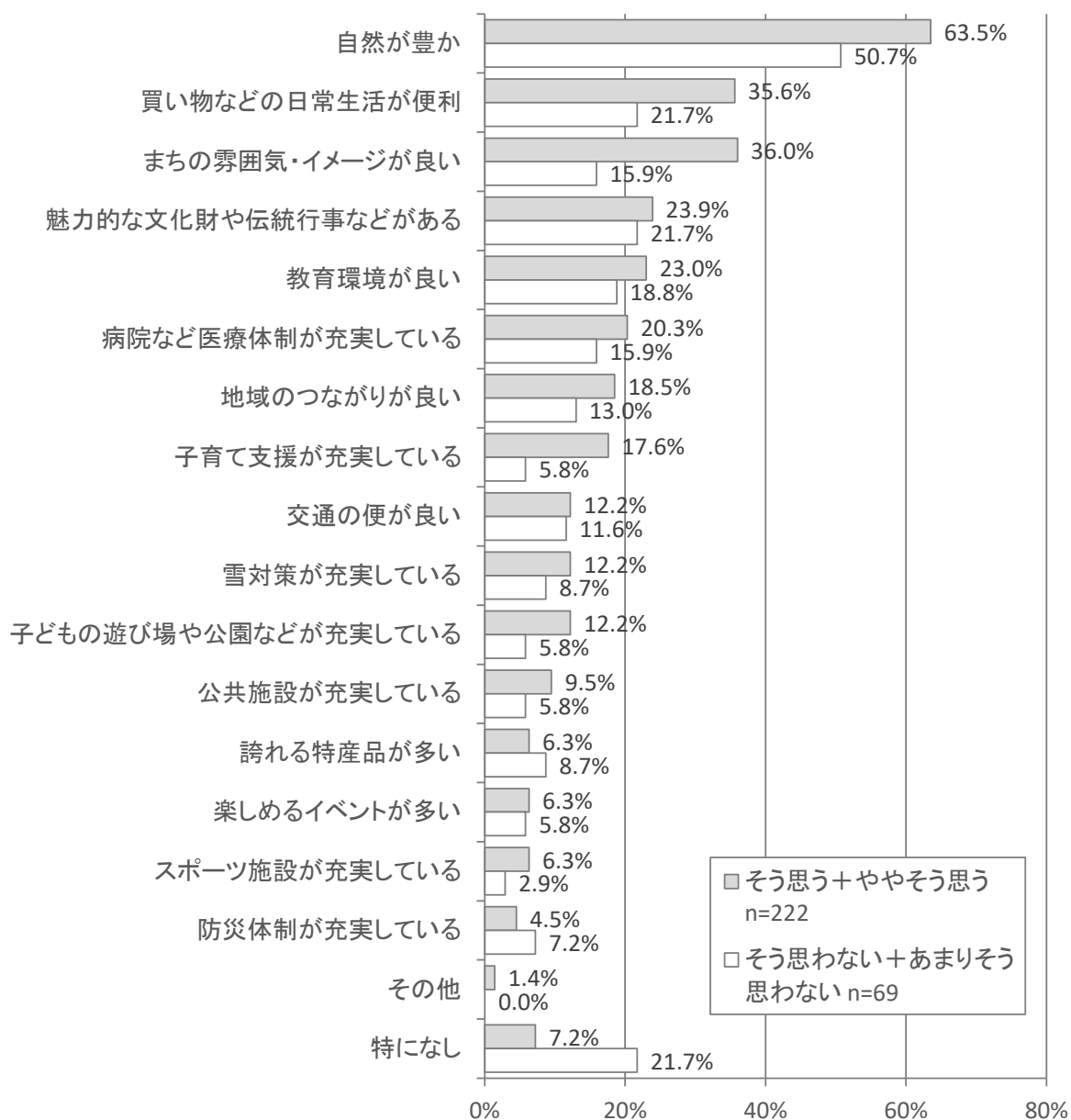
■全体



■結婚別



■問7（住み続けたいか）別



■その他の回答

- 自分が生まれた土地だから（10代／男性／太田）
- 18歳までの医療費負担がほぼなかったこと（10代／女性／協和）
- 実家がある（30代／女性／西仙北）

【問9】あなたは、大仙市に住んでいて困ったと思うこと（悪い点）がありますか。

（複数選択可）

○ 全体では、「交通の便が悪い」の割合が47.2%で最も高く、次いで「楽しめるイベントが少ない」が43.1%となっており、上位2項目の回答が突出している。

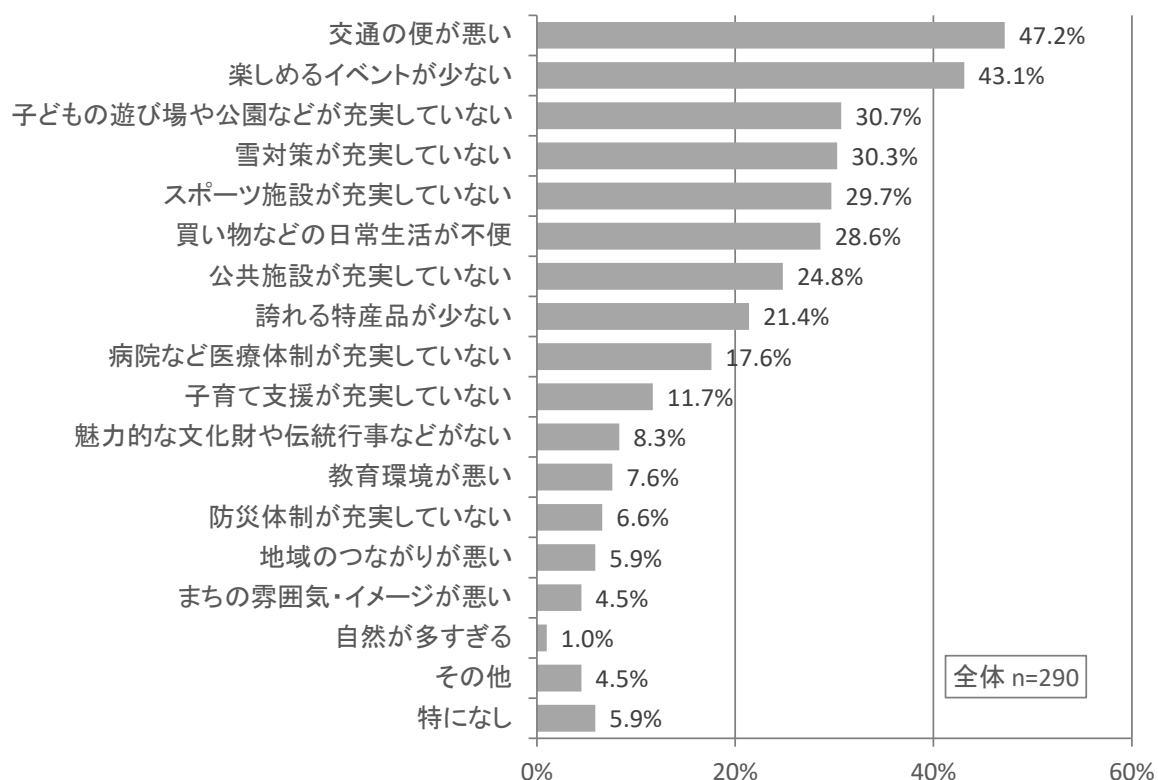
○ 結婚別で見ると、既婚者は「子どもの遊び場や公園などが充実していない」、独身者は「交通の便が悪い」の割合が最も高くなっている。既婚者は独身者より全体的に回答割合が高く、「子どもの遊び場や公園などが充実していない」「子育て支援が充実していない」では、特に差が大きくなっている。

また、独身者では「交通の便が悪い」「買い物などの日常生活が不便」「特になし」の割合が、既婚者と比べて比較的高くなっている。

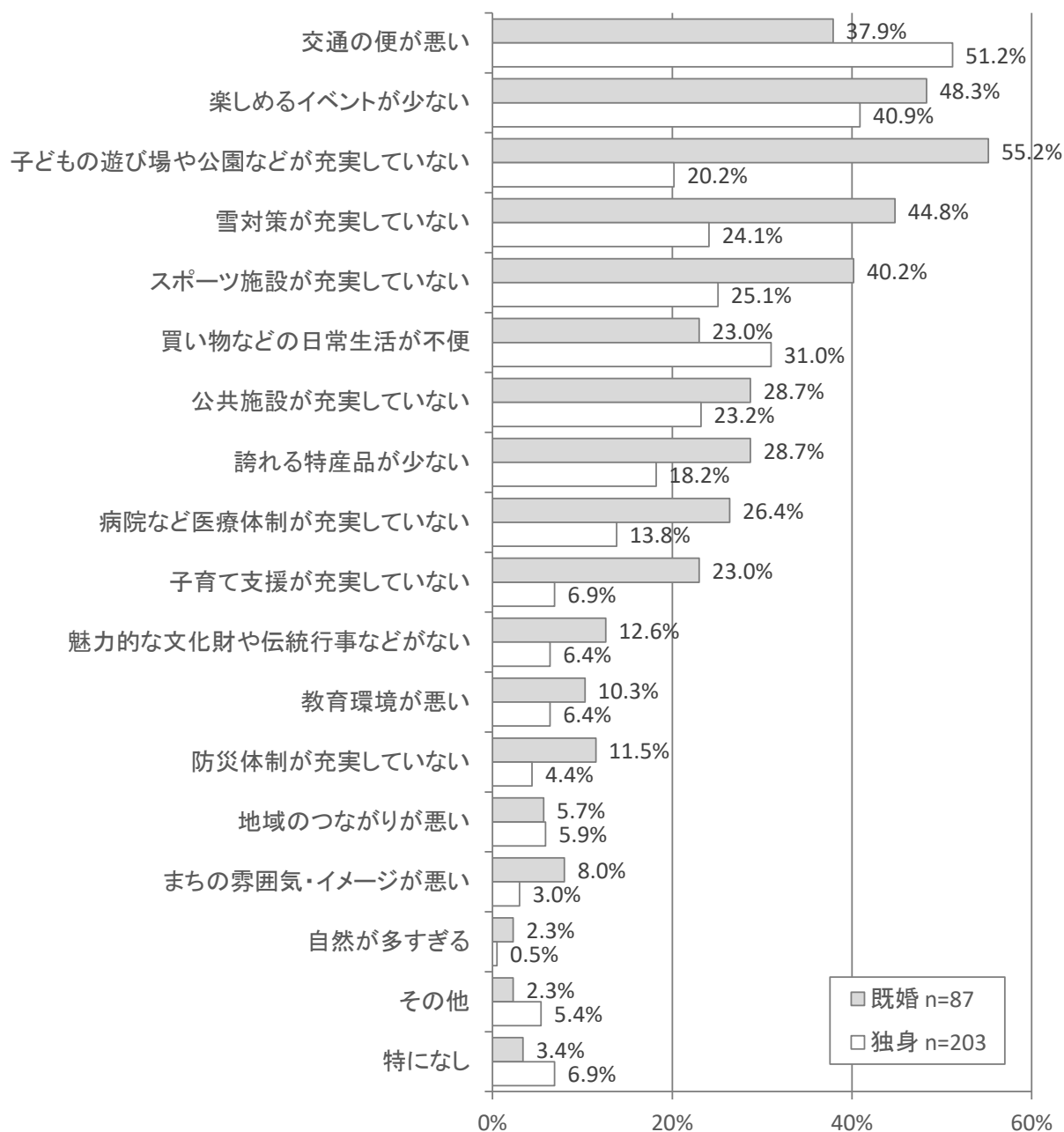
○ 問7の住み続けたいかに対する回答別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方は、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方より全体的に回答割合が高くなっており、「子育て支援が充実していない」「教育環境が悪い」は特に差が大きくなっている。

また、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方では、「防災体制が充実していない」「特になし」の割合が、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方より高くなっている。

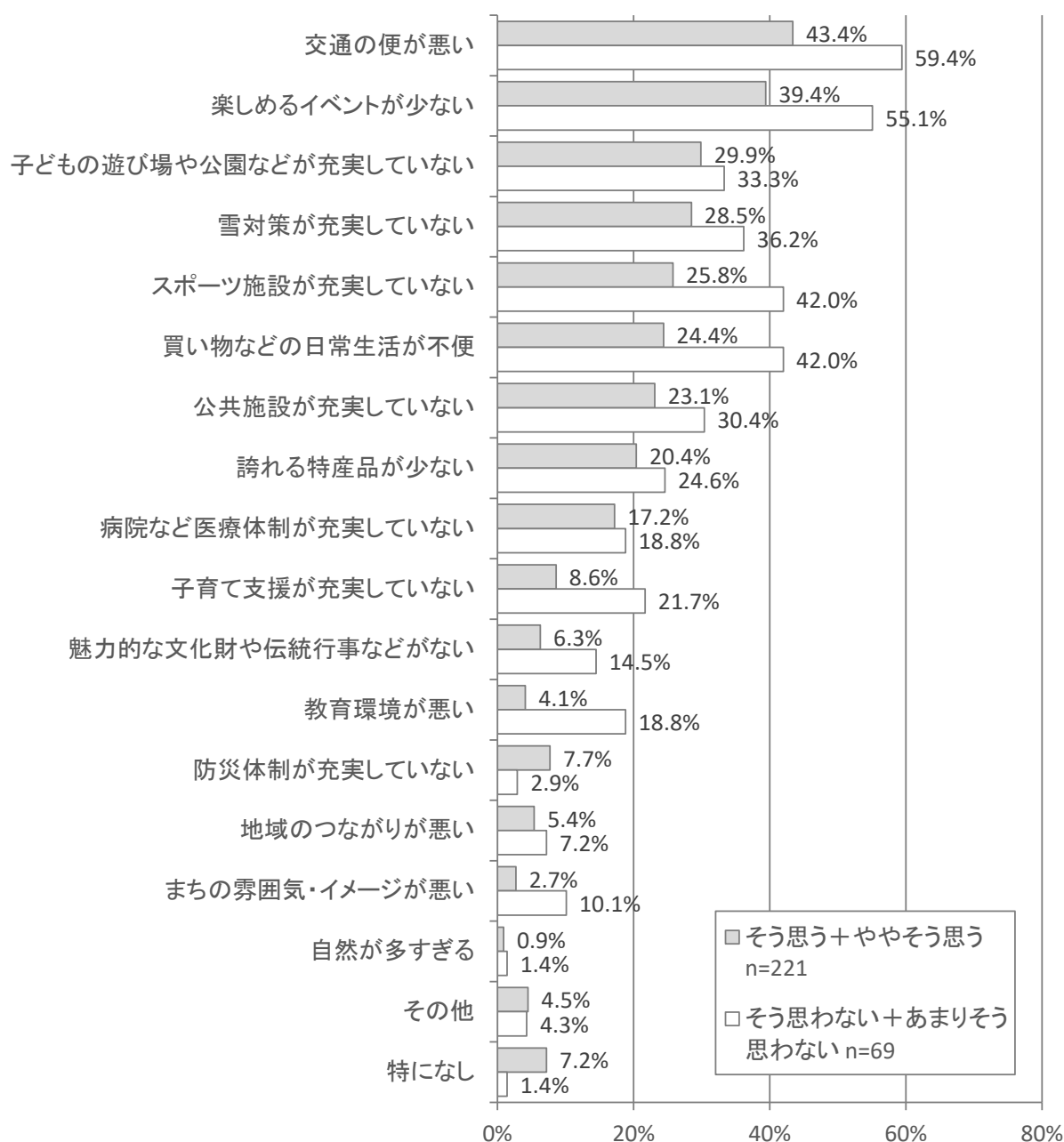
■全体



■結婚別



■問7（住み続けたいか）別



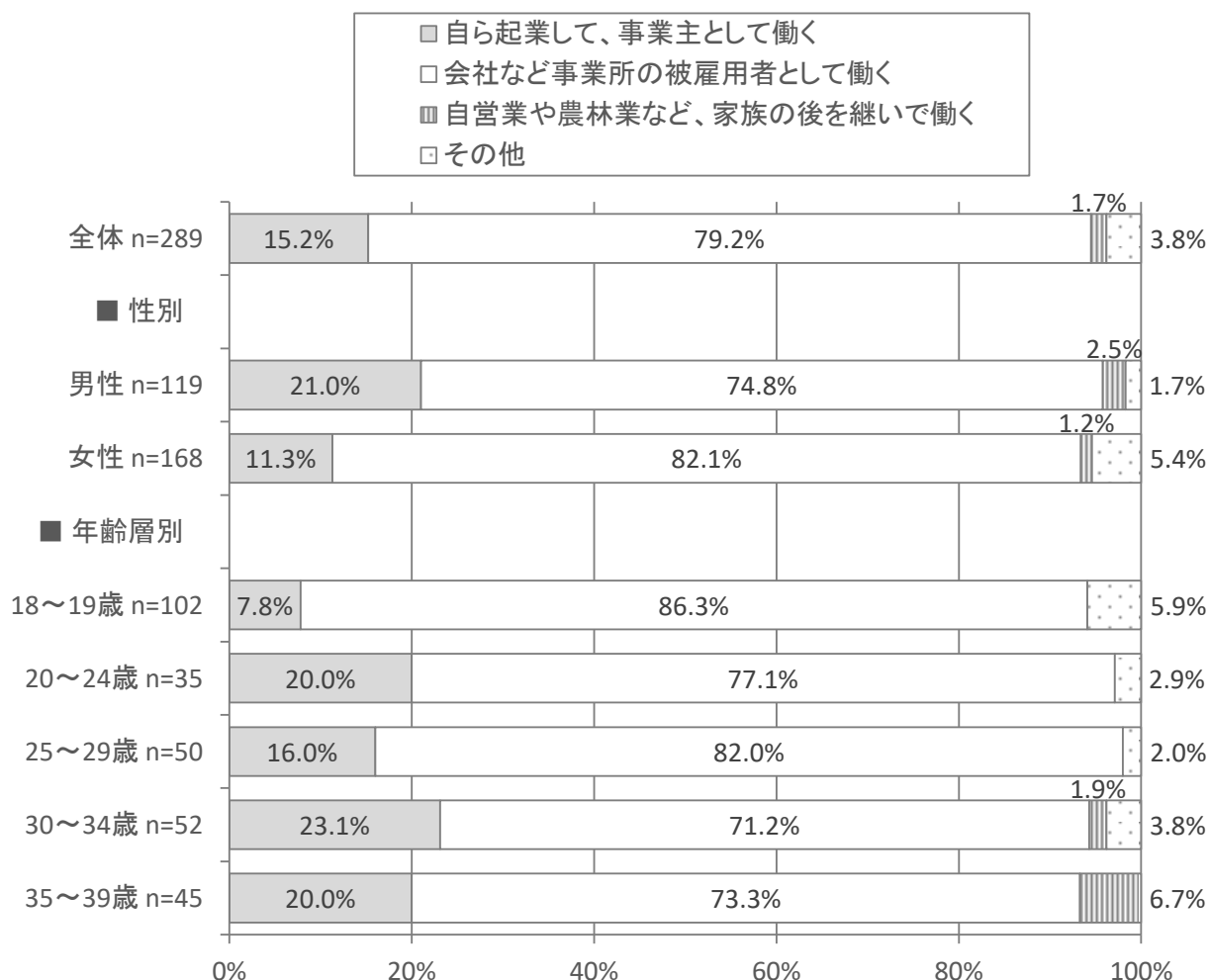
■その他の回答

- 大雨の浸水、ホワイトアウト（30代／女性／仙北）
- 感染対策に問題がある（10代／男性／大曲）
- 少数派の人に対する偏見を持っている人が多い（20代／男性／大曲）
- 大曲駅周辺がつまらない（10代／女性／神岡）
- 遊べる場所がない（10代／女性／大曲）
- 秋の丸子川の鮭捕獲用設備が景観を損ねる（10代／女性／大曲）
- 若者が遊ぶ場所が少ない（10代／女性／大曲）
- 公共交通機関の本数が少ない（10代／女性／中仙）

- 街灯がない所では夜の運転が怖い（10代／女性／協和）
- ゴミ袋が高いこと（20代／女性／中仙）
- 子育て世代への支援がない（30代／女性／太田）
- 旧大曲市はいろいろと充実しているが、それ以外の地域が大変そう（10代／女性／大曲）
- 魅力がある街づくりをしようとする努力してますか（30代／男性／大曲）

【問10】あなたが思う理想の就職方法は何ですか。

- 全体では、「会社など事業所の被雇用者として働く」の割合が79.2%で最も高く、次いで「自ら起業して、事業主として働く」が15.2%となっている。
- 性別で見ると、全体と概ね同様の傾向となっているが、「自ら起業して、事業主として働く」の割合は、男性が女性より高くなっている。
- 年齢層別で見ると、全体と概ね同様の傾向となっているが、「自ら起業して、事業主として働く」の割合は18～19歳で低くなっており、「自営業や農林業など、家族の後を継いで働く」の割合は35～39歳で高くなっている。



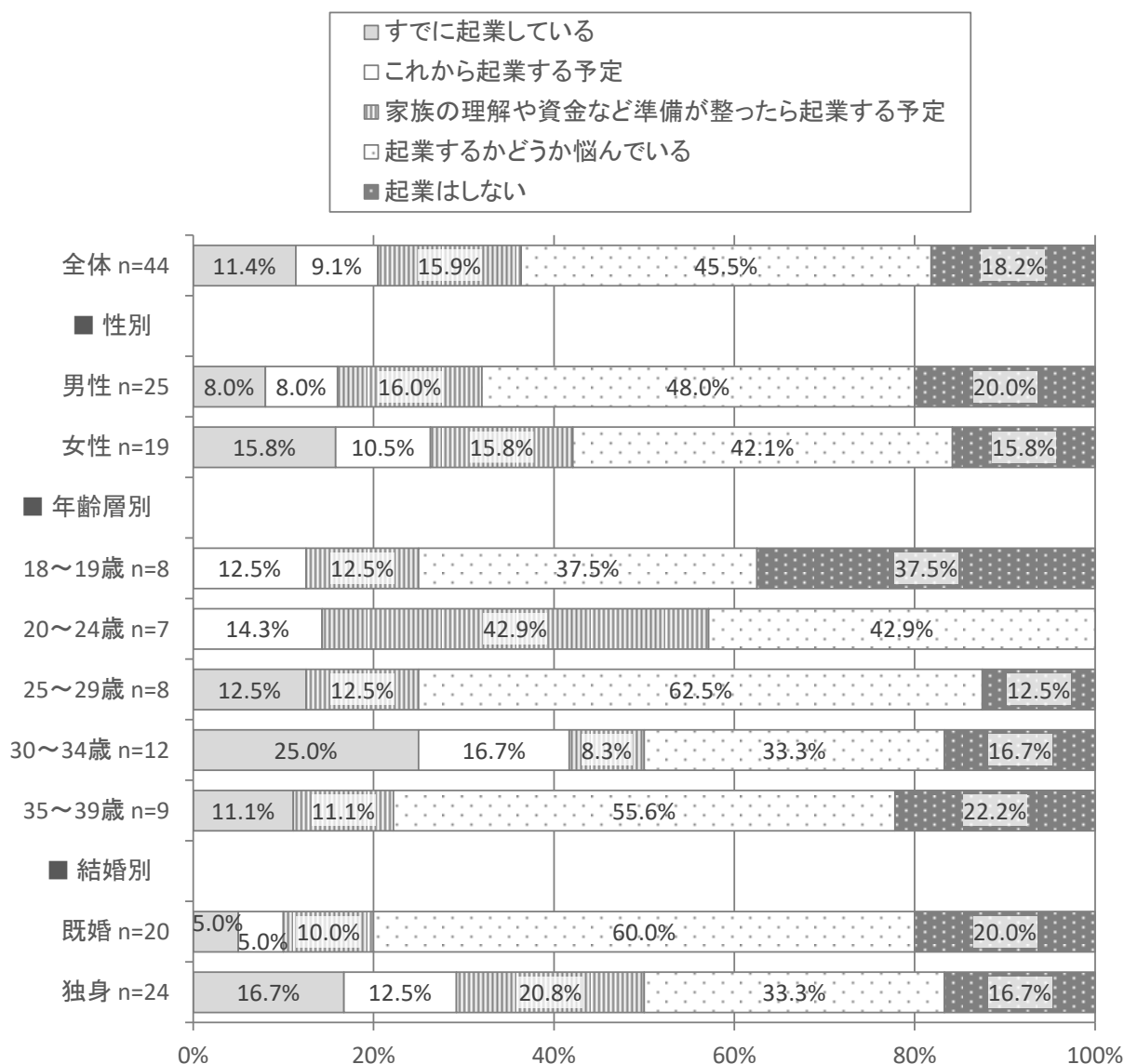
■その他の回答

- 資格を利用して働く（10代／女性／大曲）
- やりたいことであればどの形でも（20代／女性／大曲）
- 自分が納得のいくことをする（30代／男性／大曲）
- 病院の奨学金などによる、指定されたところに就職（10代／女性／大曲）

【問 11】 起業の実施状況について、お答えください。

（問 10 で「1. 自ら起業して、事業主として働く」と回答した方）

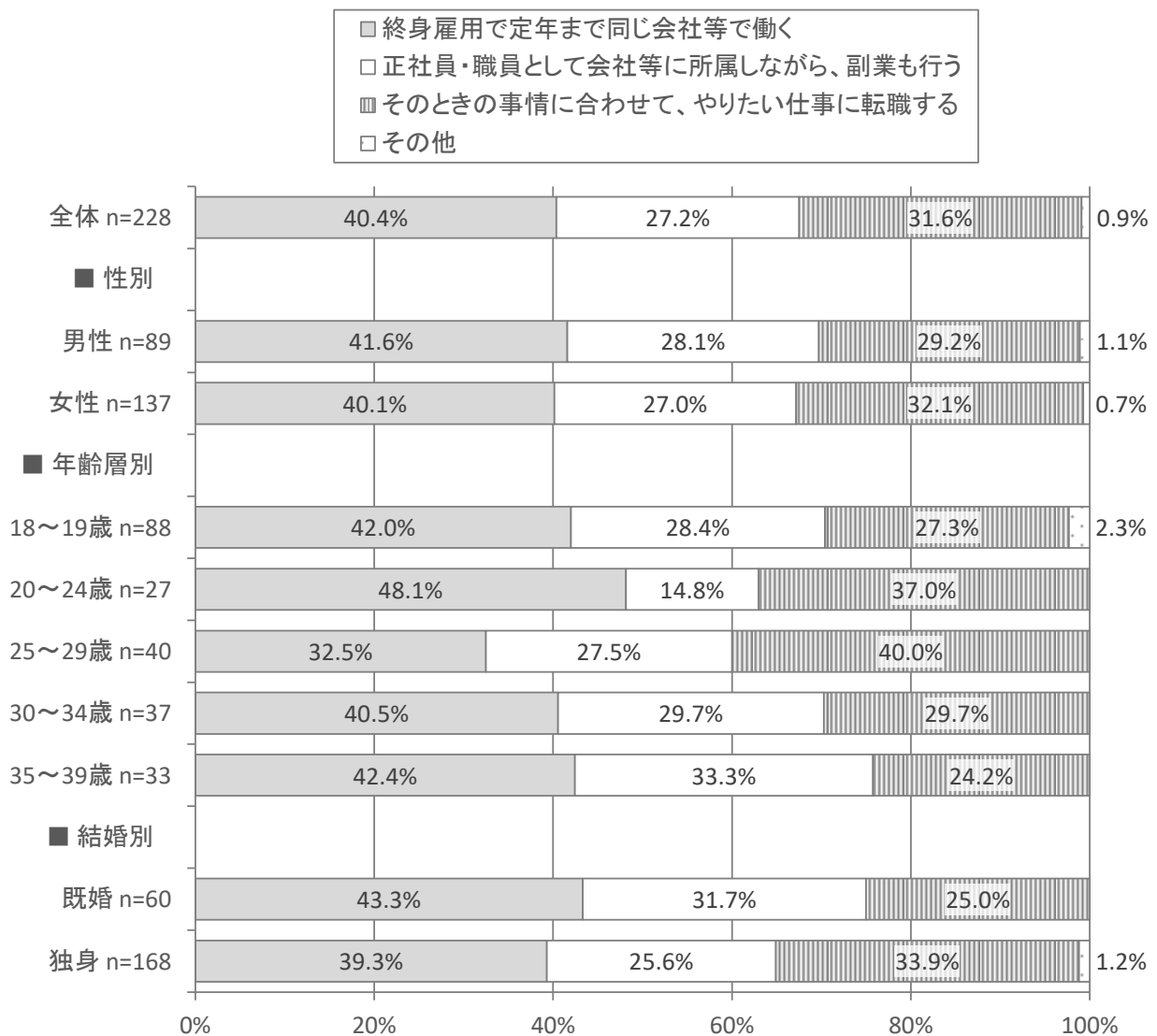
- 全体では、「起業するかどうか悩んでいる」の割合が 45.5% で最も高く、次いで「起業はしない」が 18.2%、「家族の理解や資金など準備が整ったら起業する予定」が 15.9% となっている。
- 性別で見ると、男性では「起業するかどうか悩んでいる」「起業はしない」の割合が高く、女性では「すでに起業している」の割合が高くなっている。
- 年齢層別で見ると、「すでに起業している」の割合は、25～29 歳以上では一定数あるが、20～24 歳以下では 0% となっている。「家族の理解や資金など準備が整ったら起業する予定」は 20～24 歳、「起業するかどうか悩んでいる」は 25～29 歳が他の年齢層より比較的高くなっている。また、「起業はしない」の割合は 18～19 歳が他の年齢層より比較的高くなっており、20～24 歳では 0%、25～29 歳以上の年齢層では、年齢層が上がるにつれて、増加している。
- 結婚別で見ると、既婚者では「起業するかどうか悩んでいる」の割合が 60.0% で大部分を占めているが、独身者では 3 割程度となっている。一方、独身者では、「すでに起業している」「これから起業する予定」「家族の理解や資金など準備が整ったら起業する予定」の割合が、いずれも既婚者より高くなっている。



【問 1 2】あなたが思う理想の雇用形態について、お答えください。

(問 1 0 で「2. 会社など事業所の被雇用者として働く」と回答した方)

- 全体では、「終身雇用で定年まで同じ会社等で働く」の割合が 40.4%で最も高く、次いで「そのときの事情に合わせて、やりたい仕事に転職する」が 31.6%、「正社員・職員として会社等に所属しながら、副業も行う」が 27.2%となっている。
- 性別で見ると、全体と同様の傾向となっており、大きな差異は見られない。
- 年齢層別で見ると、20～24 歳では「終身雇用で定年まで同じ会社等で働く」の割合が最も高く、「正社員・職員として会社等に所属しながら、副業も行う」の割合は最も低くなっている。また、「そのときの事情に合わせて、やりたい仕事に転職する」の割合は 25～29 歳で最も高くなっており、25～29 歳を境に年齢層が増加または減少するにつれて割合は減少している。
- 結婚別で見ると、独身者では「そのときの事情に合わせて、やりたい仕事に転職する」の割合が、比較的高くなっている。

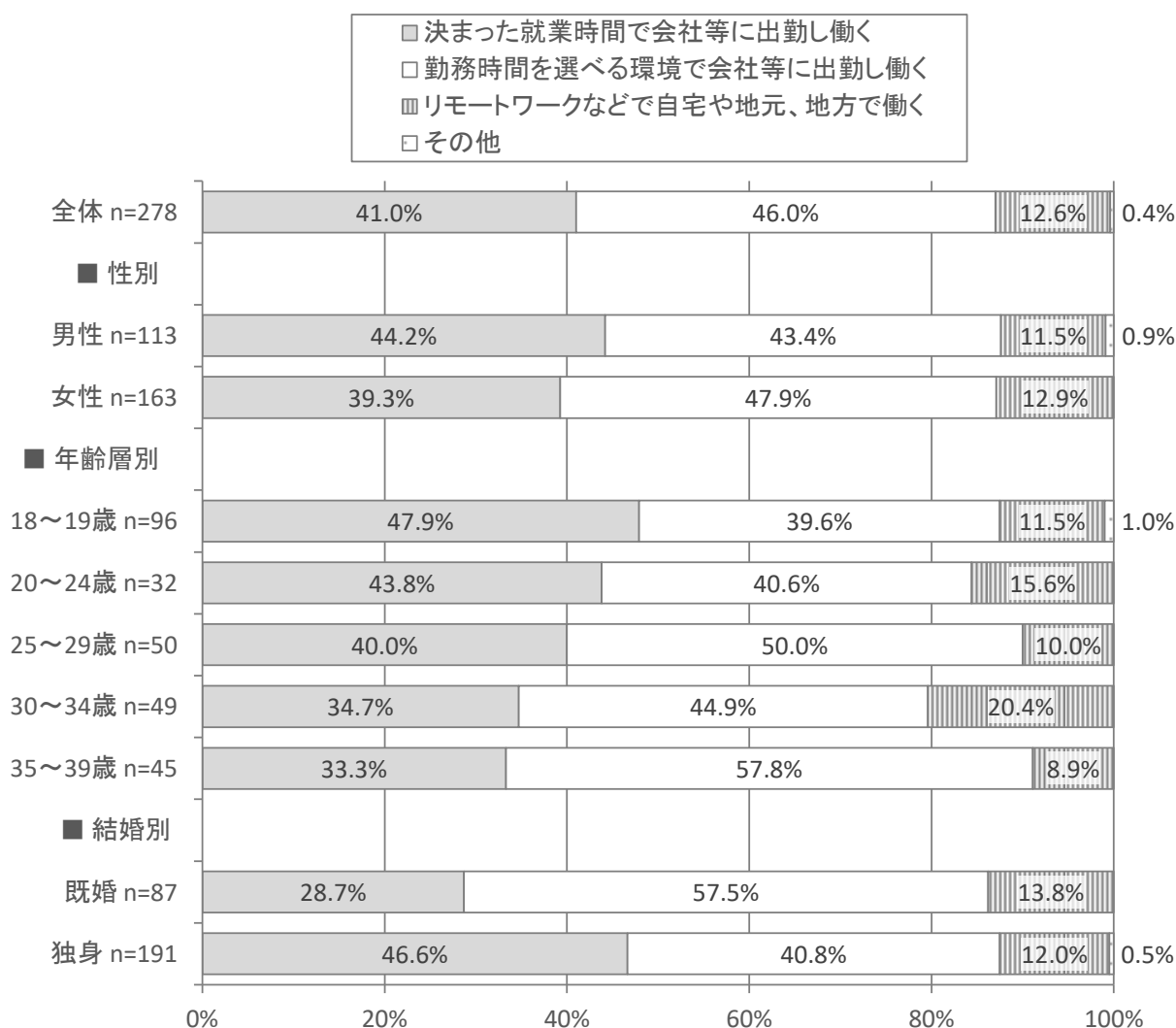


■その他の回答

- 定年まで働くこともできるし、そのときの事情に合わせて転職もできる雇用（10代／女性／西仙北）
- 基本的には定年まで働き、本当に我慢できないなら転職（10代／男性／神岡）

【問 1 3】あなたが思う理想の働き方について、お答えください。

- 全体では、「勤務時間を選べる環境で会社等に出勤し働く」の割合が46.0%で最も高く、次いで「決まった就業時間で会社等に出勤し働く」が41.0%となっており、同程度の割合となっている。
- 性別で見ると、全体と同様の傾向となっているが、男性では「決まった就業時間で会社等に出勤し働く」の割合が高く、女性では「勤務時間を選べる環境で会社等に出勤し働く」の割合が高くなっている。
- 年齢層別で見ると、「決まった就業時間で会社等に出勤し働く」の割合は年齢層が上がるにつれて減少し、「勤務時間を選べる環境で会社等に出勤し働く」の割合は年齢層が上がるにつれて増加する傾向となっている。
- 結婚別で見ると、独身者では「決まった就業時間で会社等に出勤し働く」の割合が高く、既婚者では「勤務時間を選べる環境で会社等に出勤し働く」の割合が高くなっており、それぞれ既婚者または独身者との差も大きくなっている。



【問 1 4】あなたは、市のまちづくりや地域の活動に関して意見を述べる機会や参加する機会があれば参加したいですか。

■意見を述べる機会

- 全体では、「あまり参加したくない」の割合が 56.7%で最も高く、「参加したくない」を合わせると 72.5%となっており、7割を超えている。
- 性別で見ると、男性では「積極的に参加したい」の割合が高くなっており、「あまり参加したくない」「参加したくない」の割合はやや低くなっている。
- 年齢層別で見ると、「すでに参加している」「積極的に参加したい」「参加したい」を合わせた割合は 30～34 歳までは年齢層が上がるにつれて減少しており、35～39 歳ではやや増加している。「あまり参加したくない」と「参加したくない」を合わせた割合は、20～24 歳以上で 7 割を超えており、25～29 歳、30～34 歳では「参加したくない」の割合が高く、2 割以上を占めている。
- 地域別で見ると、「すでに参加している」「積極的に参加したい」「参加したい」を合わせた割合は大曲・神岡・西仙北地域で高く、これ以外の地域では「あまり参加したくない」と「参加したくない」を合わせた割合が高くなっており、中仙地域では 89.3%となっている。また、「参加したくない」の割合は南外・仙北・太田地域で 2 割を超えており、太田地域では 33.3%となっている。

■まちづくり活動

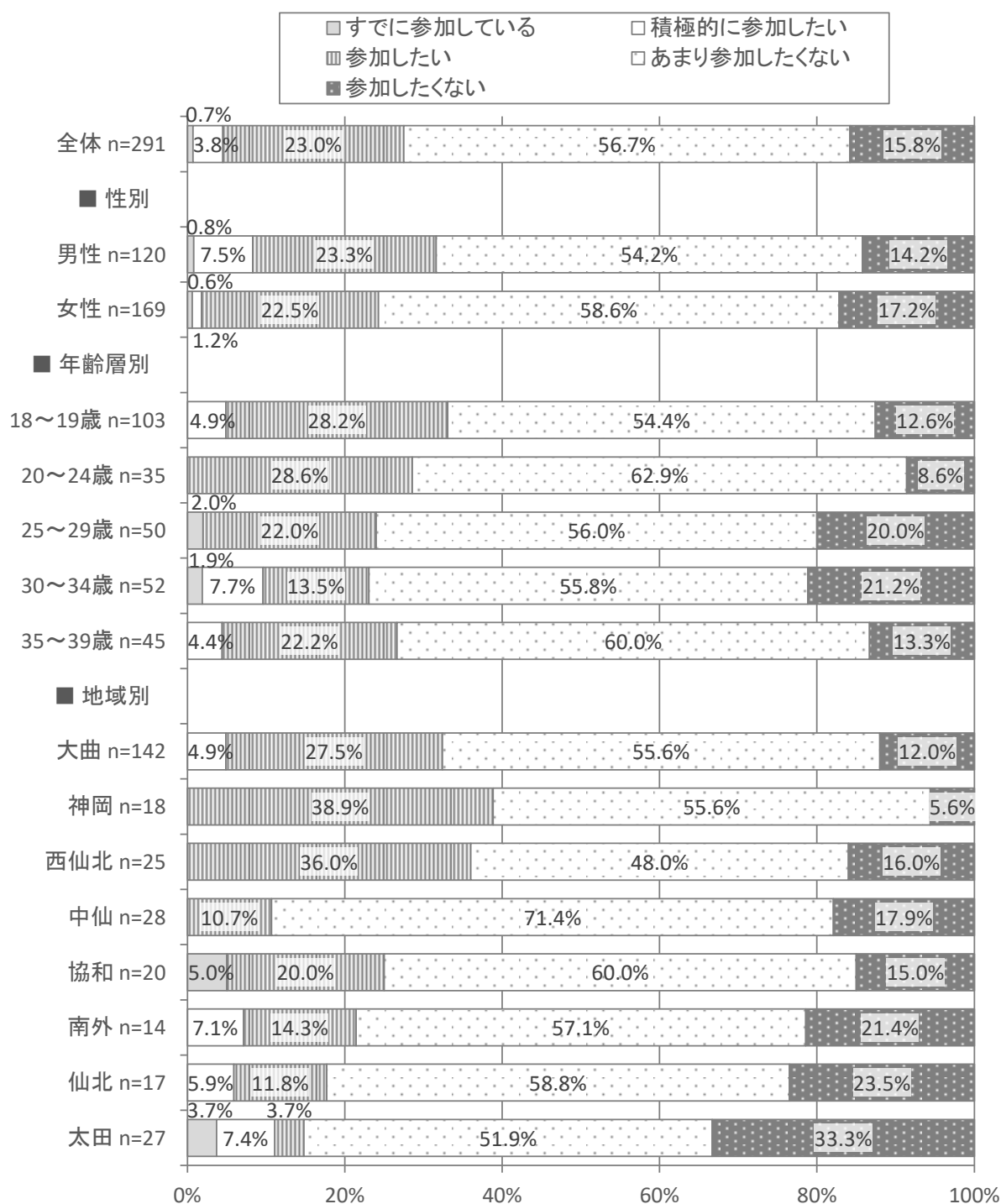
- 全体では、「あまり参加したくない」の割合が 43.1%で最も高く、「参加したくない」を合わせると 56.9%となっており、6割近くを占めている。
- 性別で見ると、男性では「積極的に参加したい」の割合が高くなっており、「参加したくない」の割合が低くなっている。
- 年齢層別で見ると、「すでに参加している」「積極的に参加したい」「参加したい」を合わせた割合は年齢層が上がるにつれて減少する傾向となっている。「あまり参加したくない」と「参加したくない」を合わせた割合は、25～29 歳以上で高くなっており、いずれも 6 割を超えている。
- 地域別で見ると、「すでに参加している」「積極的に参加したい」「参加したい」を合わせた割合は大曲・神岡地域で高く、これ以外の地域では「あまり参加したくない」と「参加したくない」を合わせた割合が高くなっており、仙北地域では 76.4%となっている。また、「参加したくない」の割合は協和・仙北・太田地域で高く、2 割以上を占めている。

■「意見を述べる機会」と「まちづくり活動」の比較

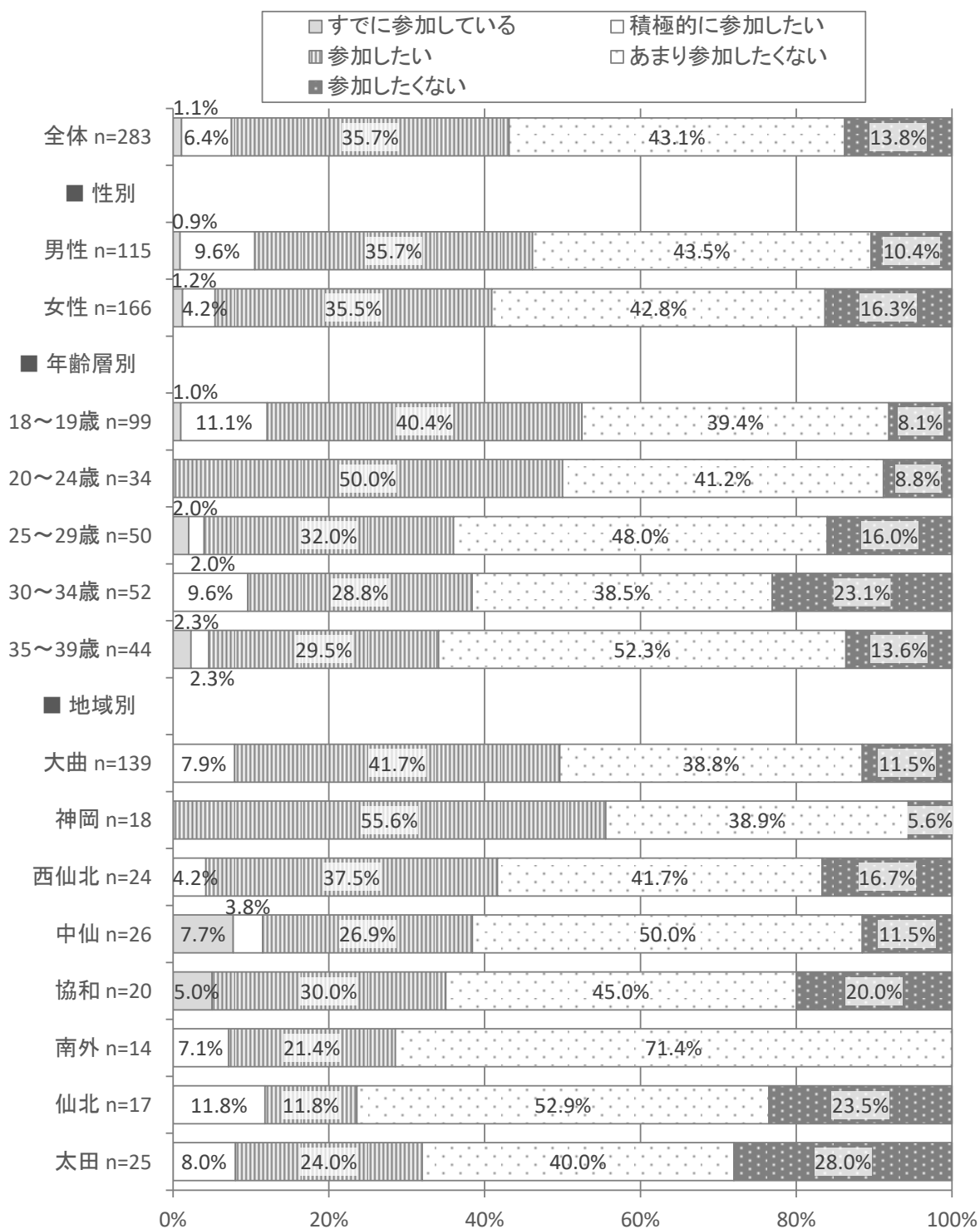
- 全体的に、「すでに参加している」「積極的に参加したい」「参加したくない」の割合は同程度となっているが、意見を述べる機会では「参加したい」の割合が低く、「あまり参加したくない」の割合は高くなっている。

- 属性別の各項目における回答割合の傾向は、概ね同様となっている。
- 地域別で見ると、中仙地域の「あまり参加したくない」と「参加したくない」を合わせた割合は、意見を述べる機会では、89.3%で最も高いが、まちづくり活動では、61.5%で比較的低くなっている。
また、南外地域の「参加したくない」の割合は、意見を述べる機会では、比較的高いが、まちづくり活動では、0%となっている。

■意見を述べる機会



■まちづくり活動

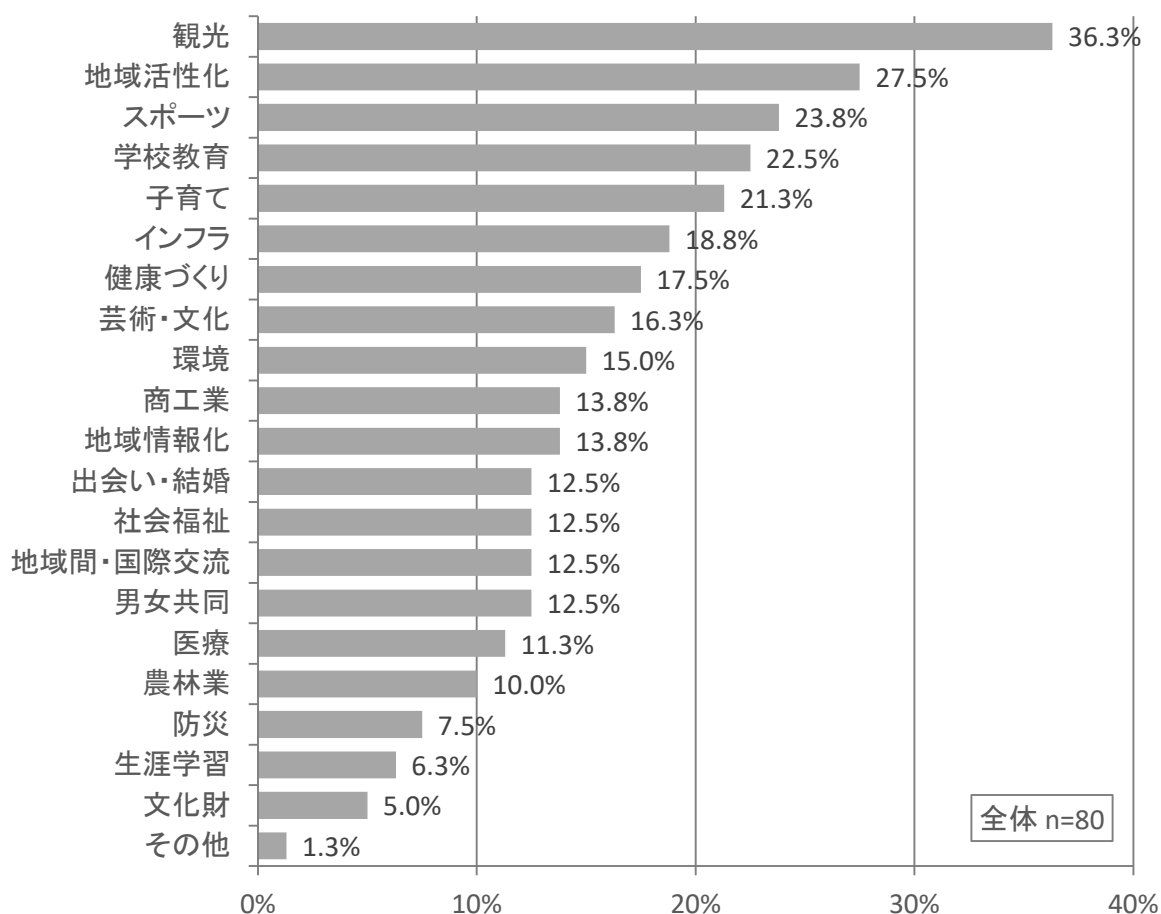


【問 15】具体的にどのような分野で参加していますか。または、参加したいと思いますか。

(問 14 で「1. すでに参加している」～「3. 参加したい」と回答した方)

- 意見を述べる機会、まちづくり活動ともに上位3項目が同じであり、どちらも「観光」が突出し、次いで「地域活性化」「スポーツ」となっている。
- 意見を述べる機会では、「学校教育」「インフラ」「地域情報化」がまちづくり活動と比較して上位に挙がっており、まちづくり活動では、「芸術・文化」「社会福祉」「医療」「農林業」が意見を述べる機会と比較して上位に挙がっている。
- まちづくり活動では、上位5番目から「子育て」「健康づくり」「社会福祉」「医療」「出会い・結婚」と続き、出会い・結婚・子育てや健康・福祉関係の項目が上位となっており、意見を述べる機会と比較しても上位に挙がっている。

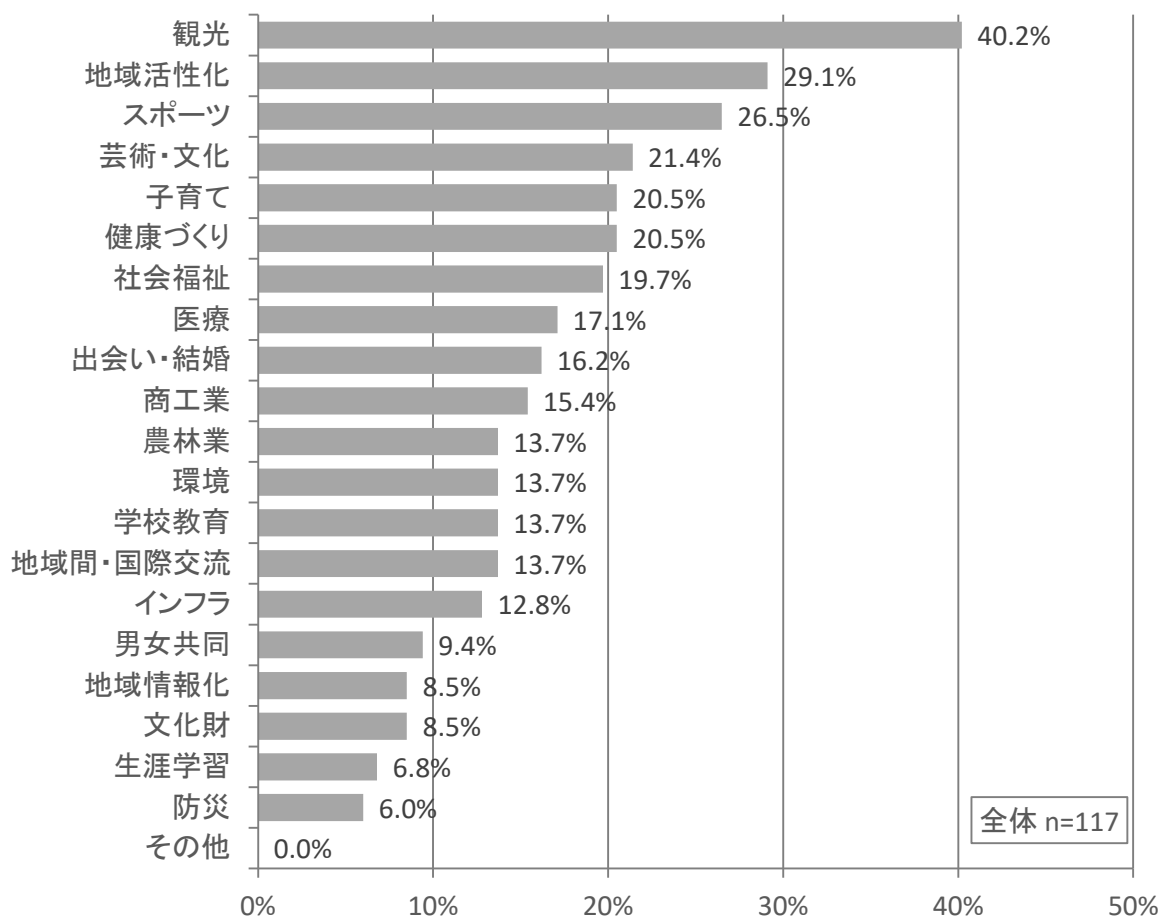
■意見を述べる機会



■その他の回答

- 経済（10代／男性／大曲）

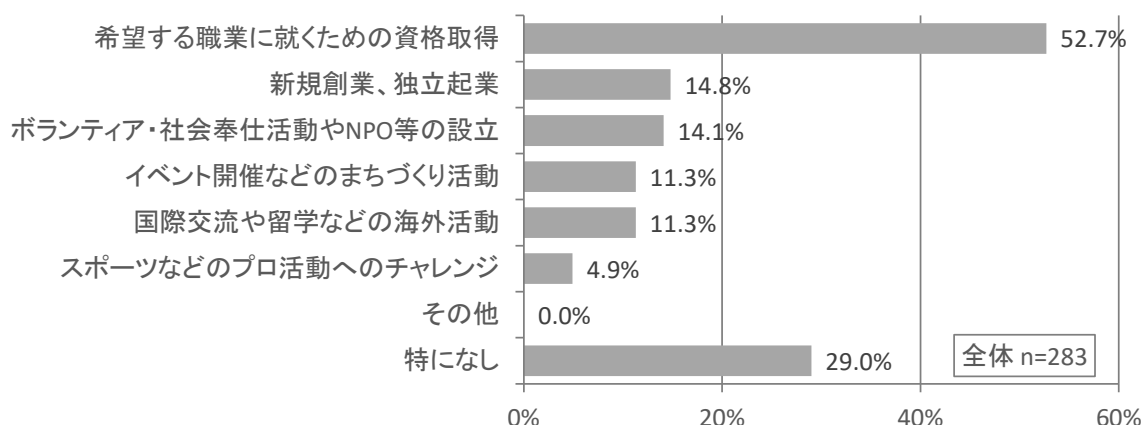
■まちづくり活動



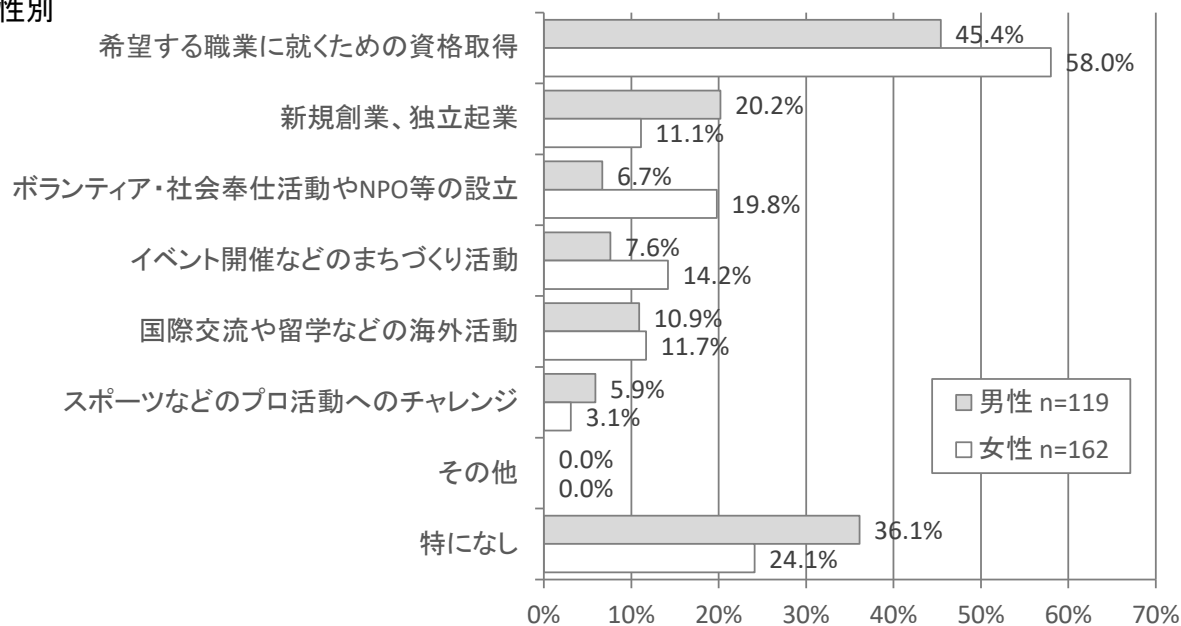
【問 16】あなたが今後チャレンジしてみたい、または新たに始めてみたいと思うことはどのようなことですか。（複数回答可）

- 全体では、「希望する職業に就くための資格取得」の割合が 52.7%で突出し、次いで「特になし」が 29.0%となっており、「新規創業、独立起業」が 14.8%、「ボランティア・社会奉仕活動や NPO 等の設立」が 14.1%と続いている。
- 性別で見ると、全体と概ね同様の傾向となっているが、男性では「新規創業、独立起業」、女性では「ボランティア・社会奉仕活動や NPO 等の設立」の割合が、「特になし」を除くと 2 番目に高くなっており、異性との差も比較的大きくなっている。
- 年齢層別で見ると、「希望する職業に就くための資格取得」の割合は年齢層が下がるにつれて、「特になし」は年齢層が上がるにつれて増加しており、25～29 歳以下では、「希望する職業に就くための資格取得」の割合が最も高くなっているが、35～39 歳では「特になし」の割合が最も高くなっている。30～34 歳では「希望する職業に就くための資格取得」と「特になし」が同率で最も高くなっている。
「新規創業、独立起業」の割合は、20～24 歳以上では 2 割前後となっているが、18～19 歳では 6.9%で低くなっている。また、「国際交流や留学などの海外活動」「スポーツなどのプロ活動へのチャレンジ」の割合は 20～24 歳以下で高くなっている。
- 結婚別で見ると、既婚者では「特になし」、独身者では「希望する職業に就くための資格取得」の割合が最も高くなっている。また、既婚者は独身者より「新規創業、独立起業」「特になし」の割合が高くなっている。

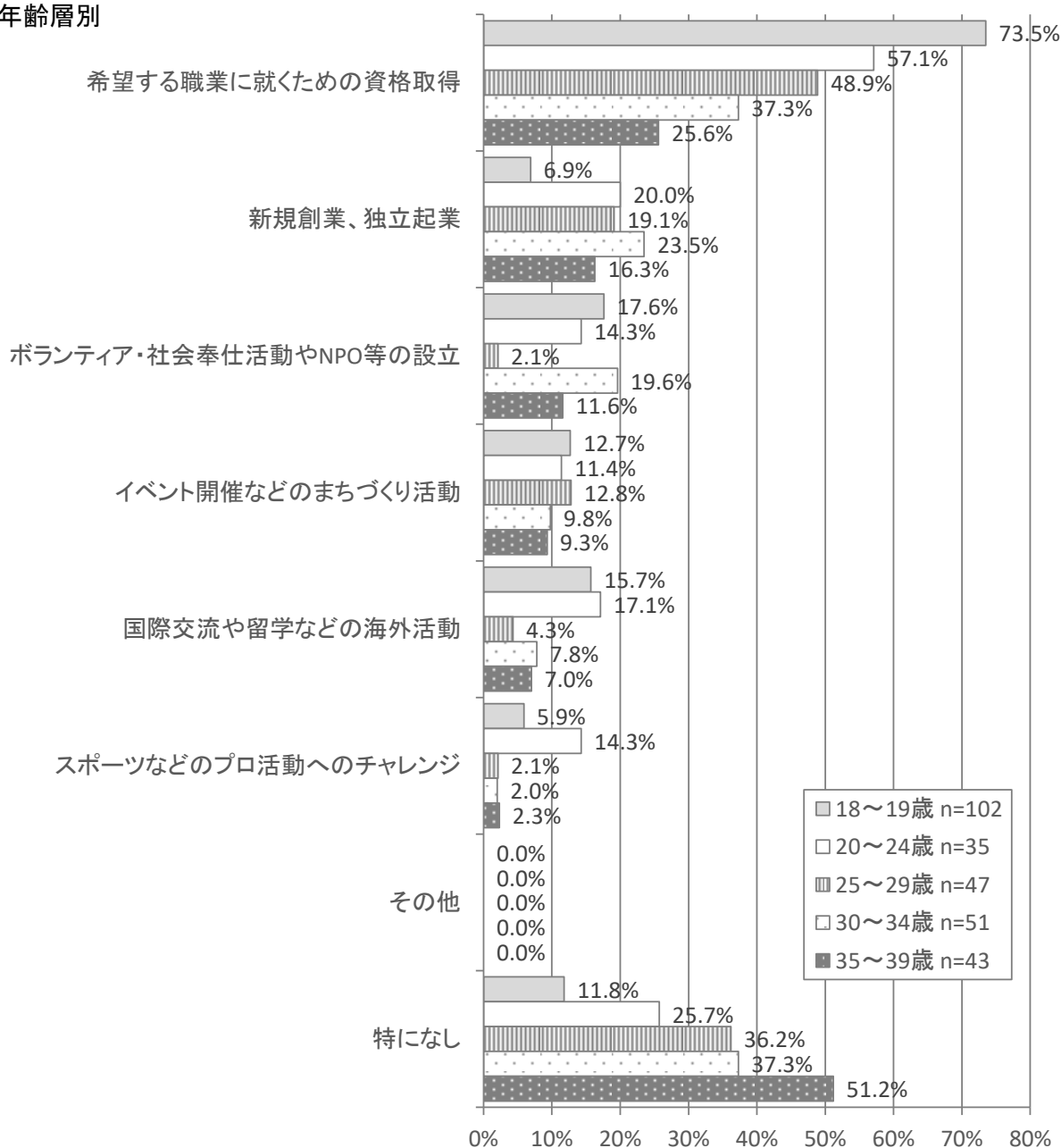
■全体



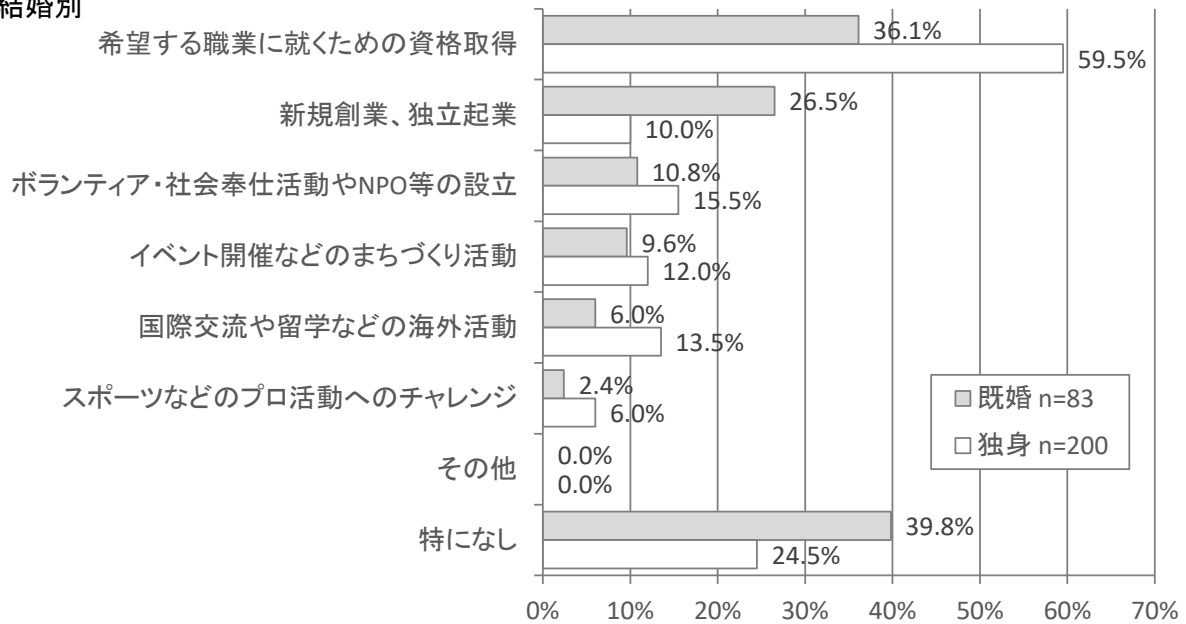
■性別



■年齢層別



■結婚別

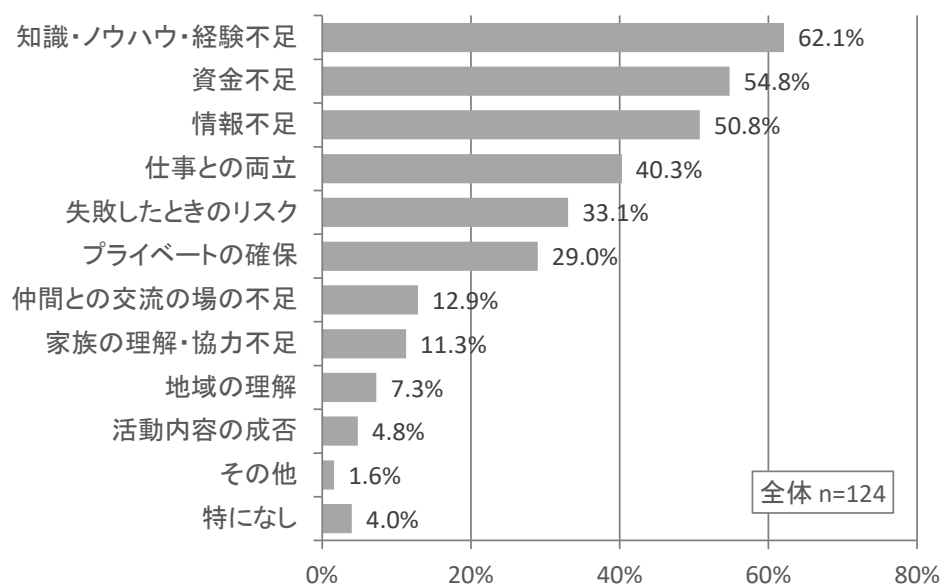


【問 17】 問 16 のチャレンジや新たなことを始めるにあたり、不安なことや障壁となると考えられるものはどのようなことですか。

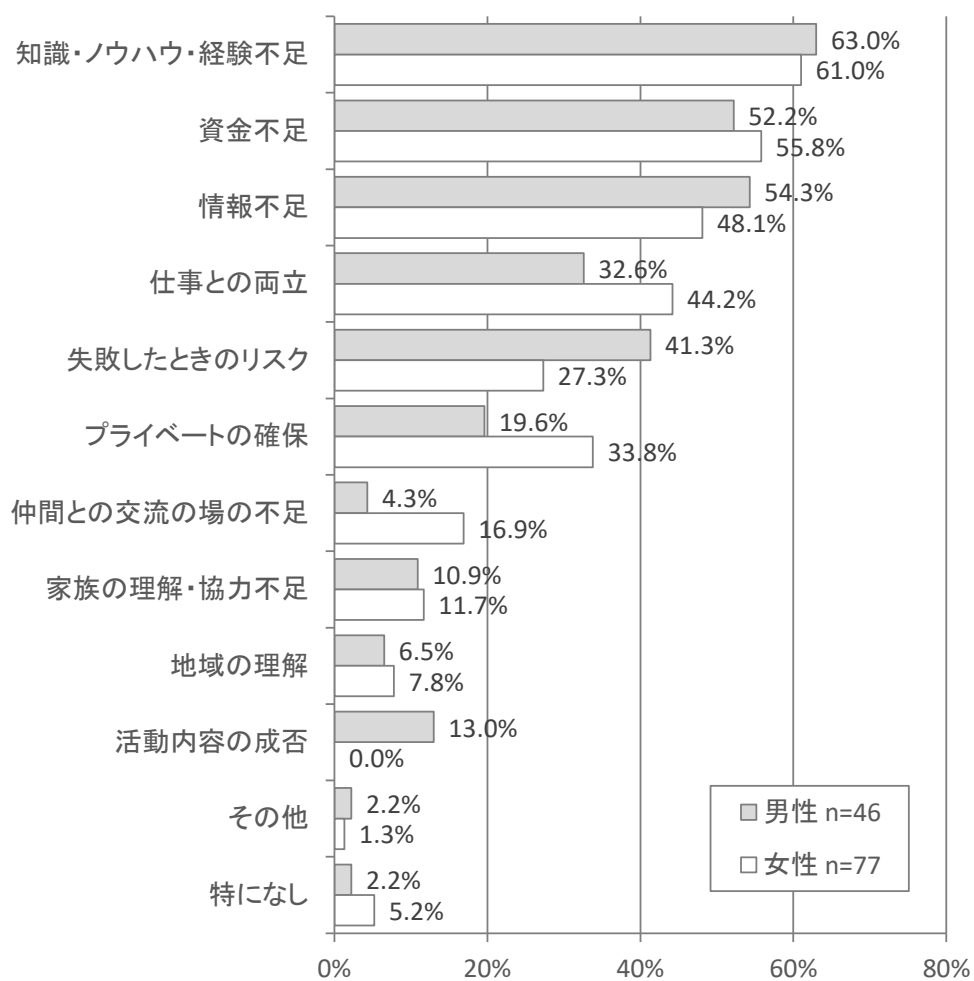
(問 16 で「8. 特になし」以外を選択した方)

- 全体では、「知識・ノウハウ・経験不足」の割合が 62.1%で最も高く、次いで「資金不足」が 54.8%、「情報不足」が 50.8%となっている。
- 性別で見ると、全体と概ね同様の傾向となっており、男女とも「知識・ノウハウ・経験不足」の割合が最も高くなっている。また、男性では「失敗したときのリスク」「活動内容の成否」、女性では「仕事との両立」「プライベートの確保」「仲間との交流の場の不足」の割合が高く、異性との差が大きくなっている。
- 年齢層別で見ると、「知識・ノウハウ・経験不足」「プライベートの確保」「仲間との交流の場の不足」「家族の理解・協力不足」の割合は、30～34 歳以上で高くなっている。また、「仕事との両立」「失敗したときのリスク」の割合は、30～34 歳までは年齢層が上がるにつれて増加しており、35～39 歳では大きく減少している。
- 結婚別で見ると、既婚者では「資金不足」、独身者では「知識・ノウハウ・経験不足」の割合が最も高くなっている。また、「資金不足」「仕事との両立」「失敗したときのリスク」「家族の理解・協力不足」の割合は既婚者が高く、独身者との差が比較的大きくなっている。

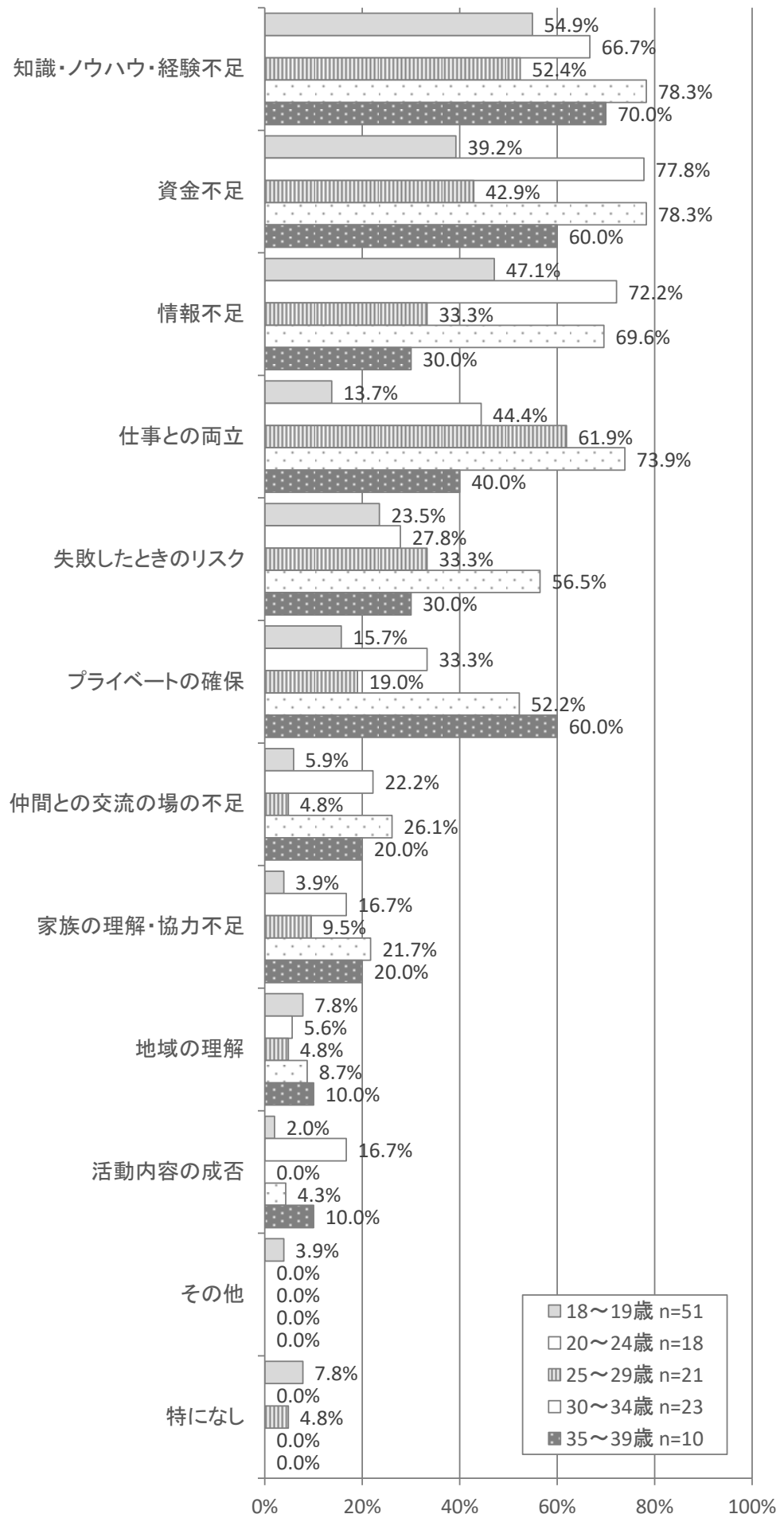
■全体



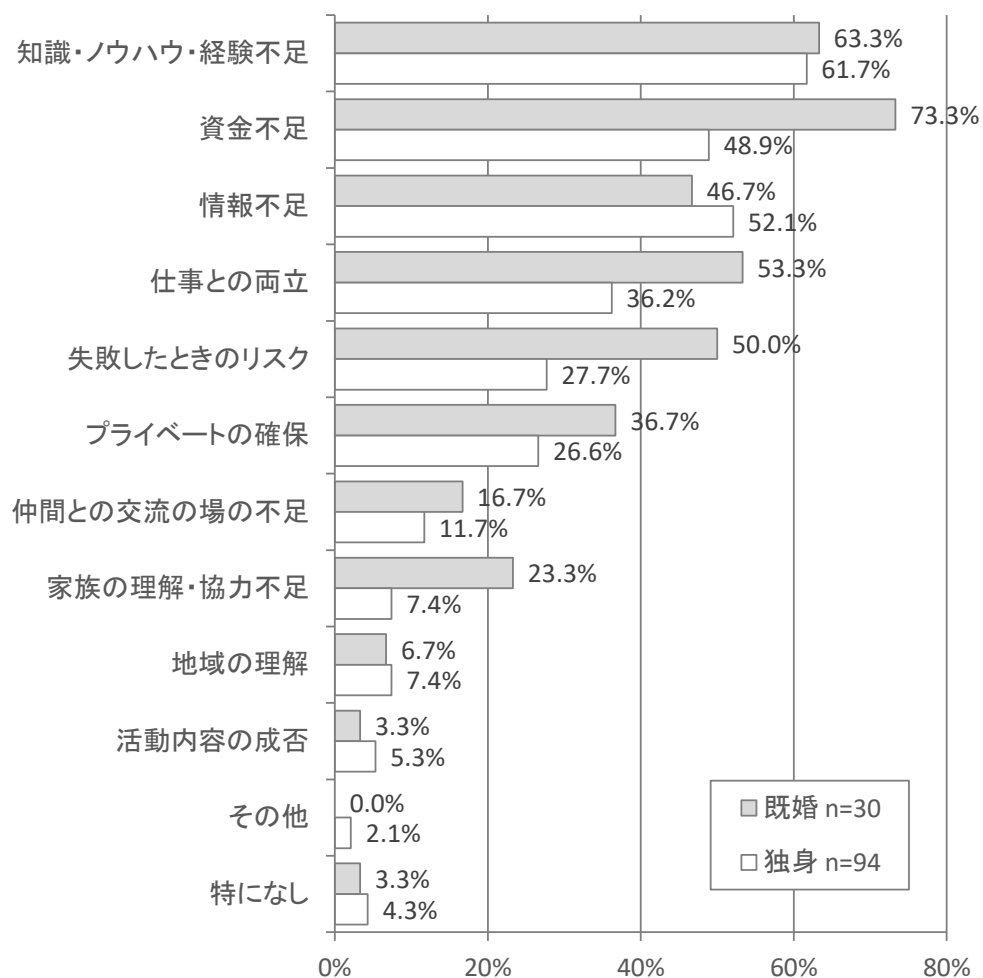
■性別



■年齢層別



■結婚別



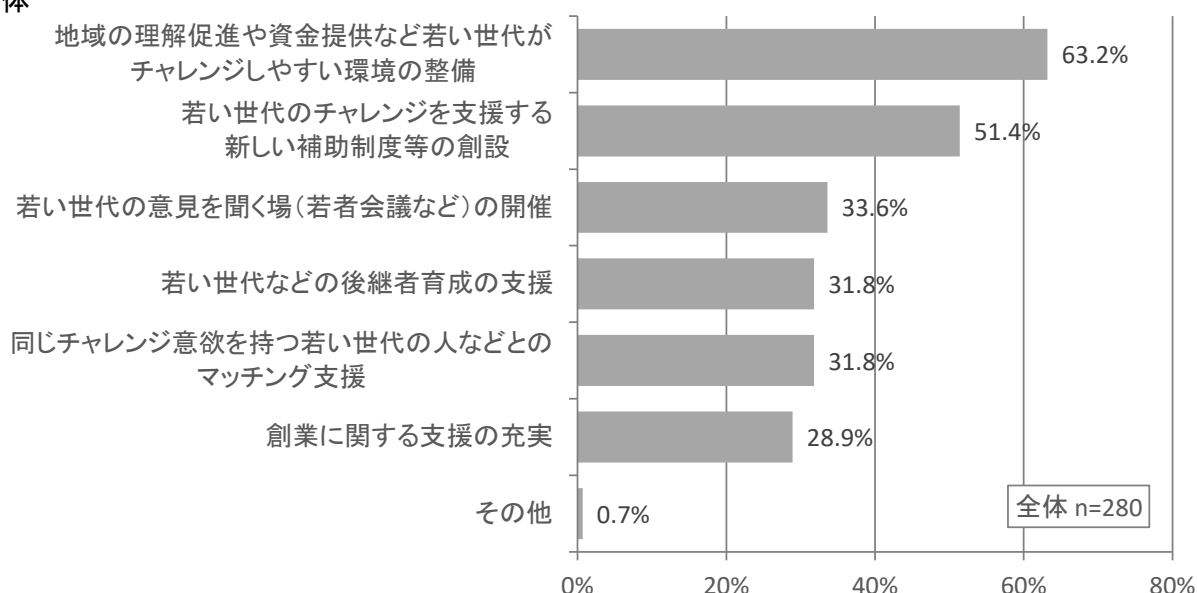
■その他の回答

- 資格取得のための試験会場不足（10代／男性／大曲）
- 時間（10代／女性／西仙北）

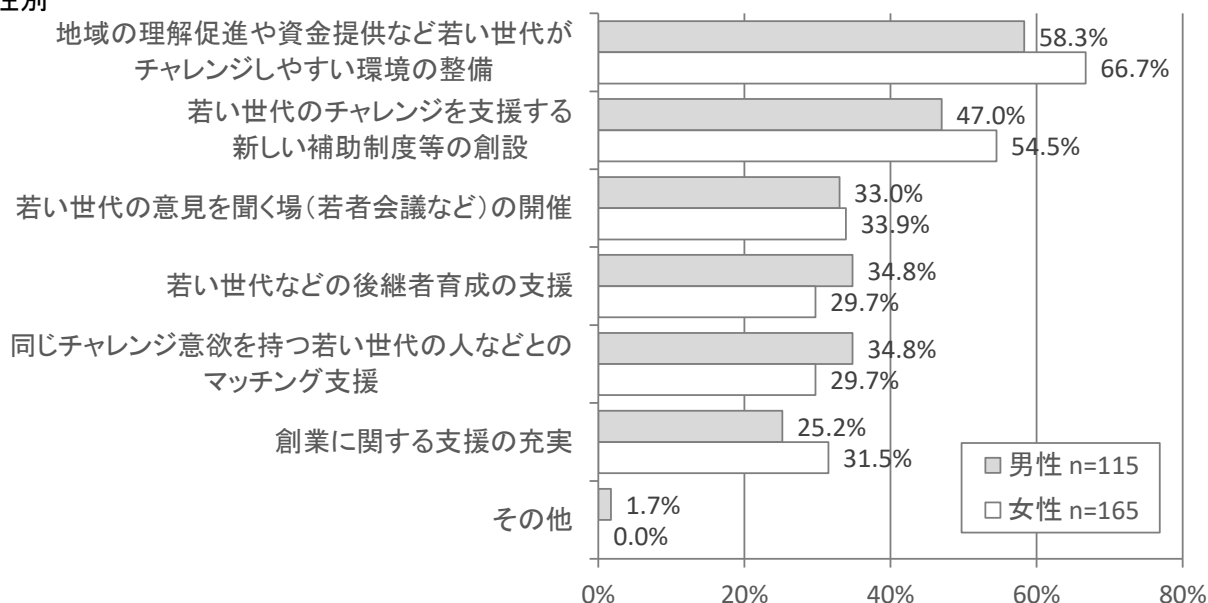
【問 18】若い世代のチャレンジを応援するための支援や取組としてどのようなものが必要だと思いますか。（3つまで）

- 全体では、「地域の理解促進や資金提供など若い世代がチャレンジしやすい環境の整備」の割合が63.2%で最も高く、次いで「若い世代のチャレンジを支援する新しい補助制度等の創設」が51.4%となっており、上位2項目の回答が突出している。
- 性別で見ると、全体と同様の傾向となっており、大きな差異は見られない。
- 年齢層別で見ると、「地域の理解促進や資金提供など若い世代がチャレンジしやすい環境の整備」「若い世代などの後継者育成の支援」の割合は、25～29歳以上で高くなっている。また、「若い世代のチャレンジを支援する新しい補助制度等の創設」は30～34歳までは年齢層が上がるにつれて減少しているが、35～39歳では大きく増加し、59.1%で最も高くなっている。

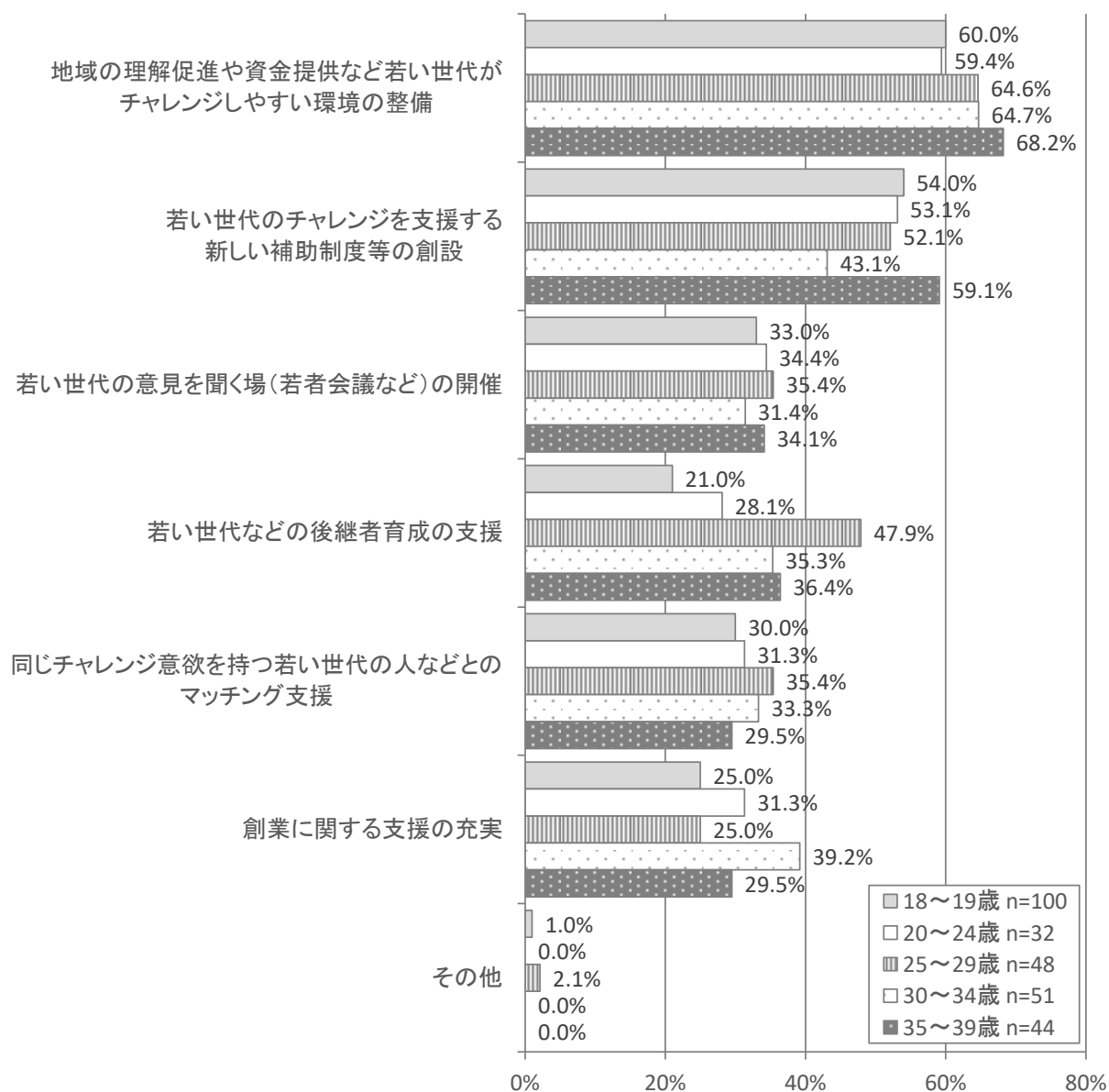
■全体



■性別



■年齢層別



■その他の回答

- 若い世代が他県に出ていかない取り組み (20代/男性/大曲)
- 医科大学を誘致する (10代/男性/大曲)

【問 19】若い世代のチャレンジへの支援についてご意見やご要望がありましたらご記入ください。（自由記述形式）

※主要な回答を抜粋しています

□商工業、雇用・就労関係について

- ・ どんどん新しい会社を起業してほしい。(30 代／女性／大曲／独身)
- ・ 支援を考えることは良いことだと思います。チャレンジしようと思う前に、大仙市を離れてしまう若い世代が多いのでは。賃金格差をなくすことや高卒での就職先の充実なども考えた方がよいと思います。(40 代／女性／大曲／既婚)
- ・ 自分は将来、PTとして地元就職をしたい。地元就職を希望する若者を支援してほしい。(10 代／女性／神岡／独身)
- ・ 大仙市のような町での起業を支えたい、観光業や商工業などを発展させたいと考えてる人は県内外に沢山いると思います。今大仙市に必要なのはそういった方々と市を繋げる場所、窓口のような施設だと思います。その施設の存在を発信することで若者の事業を支えることができます。(10 代／男性／仙北／独身)
- ・ 地方に就職する方や、地方で生活する方にも支援する必要があると思います。aターンuターンとは言われていますが、秋田には働きたい職業がない、できないから帰ってこない若者が多い気がします。私もその1人です。田んぼや畑を引き継ぐ人も段々減っていて殺風景になってきていると感じました。帰ってきたくるような策はありませんか。(10 代／女性／大曲／独身)
- ・ 後継者がおらず、廃業予定の社長と、その会社を引き継ぎながらも、自分で事業をしていきたい人をつなげるような機会を設けるというのはどうでしょうか。物件、設備、ノウハウを得ることで、若い人もチャレンジしやすいと思います。(30 代／女性／大曲／既婚)
- ・ ものづくりをしている人たちが市内外に商品を PR できる機会を増やす。商品をつくることだけではなく、経営や営業に関してもサポートや知識を得る機会を増やす。(20 代／女性／大曲／独身)
- ・ 起業した人の支援を充実させる。(10 代／男性／協和／独身)

□経済的支援について

- ・ 親の財政経済困難により第一志望の大学に行けなかった友達がいる。奨学金の支援を充実させることで若い人達の可能性を広げてほしい。(10 代／女性／西仙北／独身)
- ・ チャレンジがしやすいように資金の補助や環境を整えてほしい。また、周りの理解も必要だと思うから理解されるようにしてほしい。(10 代／女性／西仙北／独身)
- ・ 資金支援(30 代／女性／太田／独身)
- ・ 留学するときのお金の補助をしてほしいです。(10 代／女性／大曲／独身)

□その他

- ・ 未経験や知識が少ない人でも始められやすい支援を行ってほしい。(20 代／女性／大曲／独身)
- ・ 大学や専門学校を誘致することによって若い人が集まる街になり、地域の商業の活性化につながると考える。(10 代／女性／神岡／独身)
- ・ チャレンジ支援をうまくアピールして、若い世代の人口流失を減少させるようにしないと、どんどん若者がいなくなる一方だと思う。(30 代／女性／西仙北／既婚)
- ・ 秋田県のよい所を確認、再確認、発見をするためにも、秋田県に入りたいと思う人を(コロナ禍)すべて無料で PCR 検査してほしい。(10 代／女性／大曲／独身)

- ・ 大仙市から夢の為に市外や県外へ出て大学、専門学校に通う人への支援をお願いしたいです。若い人向けのプロジェクト等もあれば市外、県外へ出る人が減ると思います。(10代／女性／大曲／独身)
 - ・ 伝統にとらわれすぎない、自分らしくあれる街であれば人口は増えると思う。職業は自己選択できるよう、公的に、若者の意志の尊重をするべき。経済的には、高齢者ばかりではなく、若者へ支援をするべき。(20代／女性／大曲／既婚)
 - ・ お祭りなど伝統行事の継承や存続、そして若い世代の盛り上げようとする試みへの支援を出来るようにしてほしいです。(30代／女性／西仙北／独身)
 - ・ スポーツを頑張る若い世代が世界レベルで戦える環境を整えてあげたい。(30代／男性／大曲／既婚)
 - ・ クリエイティブな事業案が若者から届いて担当者が少しでも興味を持って動いたなら一蓮托生。最後まで見届けて貰いたい。やる気の有る若者の心を折ることの無い対応や心を鍛える叱咤激励をヨロシクお願いします。(30代／男性／西仙北／既婚)
 - ・ 若い世代が定着しないのは、将来に不安があるからではと思う。ただでさえ安い賃金に、遊ぶ場所もほとんどない。進学するにしても高校以降は市内から出ないといけない。この時点で最初から人口流出のきっかけを作っている。田舎だから、と諦めてしまう。せっかく起業しても成功するのはひとにぎりの印象。就農するにしても出来上がったコミュニティに入るのは気が引ける。など。どうも、若者に対しての支援がいまいちを感じる。支援がうわべだけになってはいけない。よく広報に若い世代のインタビューが載っているが、載せておわり、になっていないか。ぜひその後も取材してほしい。その後仕事を続けていても、やめていたとしても。何が原因でよかった、悪かったなど包み隠さず知る機会がほしい。後継者育成支援については、小中高の授業に組み込んでみるというのはどうか。小さいうちから触れさせることで、地元産業に興味を持つ機会になるのでは。お金がない、頼れる人がいない、場所がない、魅力がない、出会いがない、から楽しくない。思いつくだけでもこれだけ出てきた。この際進学、就職、結婚、子育ては市で全て保障する、ぐらいの気持ちでやってほしい。大仙市に住みたい残りたいと思う人が増えないかぎり、状況はずっと変わらない。(20代／女性／大曲／独身)
 - ・ 知識を付けるための研修やセミナー、ベテランの方々からのバックアップ体制、金銭的な補助(補助を受けるためには審査や経過報告を必要とするなど)が必要だと思う。(30代／男性／大曲／既婚)
 - ・ 若い方のチャレンジへの支援を積極的に行なっていただきたい(20代／男性／神岡／独身)
 - ・ 現代社会では、10代から60代もしくは70代の方も働く時代です。どうしても若い考えと、経験を積んできた年配の方々とは考え方が違います。会社も子育てもその時代に合った考え方をしなければうまくいかない世の中です。若い世代の意見交換や、若い世代と年配の世代を集めた意見交換会など多く設ければ何が足りないか、日頃若い社員、若者が言えない事も他の企業の若い世代から意見を聞くだけで、今現在経営者として頑張ってる年配の経営者も何か感じる事が出てくると思います。(30代／女性／大曲／既婚)
 - ・ 市政がなにをしているかが分からないのが多数だと思う。圧倒的に若者とのコミュニケーションと、PR力が足りない。広報とホームページに載せれば良いと思ってます？ほとんど見ません。(30代／男性／大曲／既婚)
 - ・ 支援策を立てたらその支援策のPR方法を積極的にしないと若者は気が付かないと思います。正直、市の広報を真面目に読んでいる人は私の両親世代でも少ないと思います。なので、SNSで広告を出したり、大仙市のYouTubeチャンネルで政策の紹介動画を投稿したりすれば良いと思います。推測ですが参考にしてみてください。(10代／女性／太田／独身)
- 意見を聞く場やマッチング支援などは、分野で分けて参加出来たらいいなと思います。開催する側も、同世代の方がいてくれると参加しやすいし、話しやすいと思います。(20代／女性／神岡／独身)

- 東京などの大都市部から県内の大学に進学してきた私の周囲の若者からは、「秋田はいいところで旅行したいが、住むつもりはない」という声が多く聞かれる。大卒者が県外に流出してしまうという傾向はこれまでもよく見られていたが、人口減少が極めて深刻化している近年では高卒者が良い就職先を求めて県外に流出し、地元に着定しなくなっていることを、行政は深刻な課題として捉えるべきではないか。この問題は、すなわち、「若い世代のチャレンジへの支援」以前にその支援の対象となる若い世代が急激に減っているということだ。これはまさに約 15 年の市政が十分な対策を講じて来れなかったことを反映している。若者が定着しない原因としてよく挙げられるのは、低賃金であることや、仕事の種類が少ないこと、大都市に比べ娯楽が少ないことなどだ。これらの指摘は全て正しいと思う。一方で、これらの問題に対処するには、市だけでできることはおそらく限られるだろう。そのため、周辺の市町村や県、国などとも連携して取り組んでいくことが必要だ。問題解決のためには創意工夫が必要だ。そこで提案だが、なぜ若者が定着しないのかをこれまで以上に深く探るために、大仙市から県外に出ていってしまった若者に対してもアンケート調査を行い、原因を根本的に問い直してみてもどうだろうか。調査結果から、大仙市が独自で創意工夫できる部分が発見できるのではないだろうか。さらに指摘しておきたいのは、若い世代がチャレンジしやすい環境をつくるためには、まずは大仙市がさまざまなことにチャレンジすべきだということだ。大仙市の財政は厳しい状況にある。しかし、大仙市が敢えて(税金を大切に使えるという指摘はあるだろうが)失敗を恐れずにさまざまな若者向けの事業を行っていくことが若い世代のチャレンジへのいちばんの支援になるだろう。私が具体的に大仙市がどのようなチャレンジをするべきか提案したいのは、まず、コンピュータ、サイバー関連に対して可能な限りの投資を行うことだ。国主導で学校でのデジタル化などが進められているが、それだけでは不十分だ。例えば、現在では、ビッグデータを分析して科学的に政策や事業の実行の是非を提言できるデータサイエンティストの育成、活用が求められている。こうした人材を育成できる場所を市が中心となって提供すべきではないか。そのためには大学や IT 関連会社との連携も必要だ。また、市自身もこうした人材を活用して、より科学的に政策評価を行うことで、より効率的に行政を運営できるようになるだろう。加えて、アマゾン・クラウド・サービス(AWS)などのクラウドサービスを活用して、行政の効率化に積極的に努めていくべきだ(行政の効率化は合理的に進めていくべきで、安易な人員削減、非正規化には強く反対する)。AWS については不信感を持つかもしれないが、日本政府も AWS を採用した基盤の導入を始めている。こうした先進的なデジタル化の取り組みを通じて、IT ベンチャーなどの企業誘致を進めるべきだ。インターネット環境さえ整っていればどこでも利用できるということと、コロナ禍で地方志向が強まっているという点で、まさに IT は最後のチャンスと言えるだろう。ただ待っているだけではこうした企業が大仙市に来ることは絶対にない。大仙市が思い切ったチャレンジを行うことで、大仙市は IT 先進自治体になることで、若者がチャレンジしやすい環境になるだろう。これを若い世代のチャレンジへの支援の一つとして提案したい。大仙市が IT に取り組むことは、ひいては、自動運転車の導入や、大曲の花火を VR(バーチャルリアリティ)化してアピールするなど、さまざまな事業にも役立つので全市民の利益になるだろう。もう一つの大仙市のチャレンジとして、エネルギー関連産業の振興を提案したい。残念ながら、大仙市は風力発電のポテンシャルは小さいものの、秋田県沿岸部ではその導入が大規模に進められている。そこで、大仙市に、風力発電関連の部品製造メーカーや、発電機の整備業者などを誘致することを提案したい。これは、将来性のある産業というだけではなく、若い世代の就職先の提供にも繋がる。こうした大仙市のチャレンジが若い世代に魅力を感じさせるものであり、彼らに、大仙市でチャレンジしたい、という気持ちを引き起こすものになるだろう。(20 代／男性／神岡／独身)
- 私は大仙市の中学生海外派遣事業でオーストラリアを訪れました。その時に学んだことをより深く学び、故郷に恩返ししたいと思い大学進学等の進路に大きな影響を与えました。中高生が海外に行くというのは進路や将来を考えるうえで多大な影響を与えるのではないかと思います。(10 代／女性／協和／独身)

- ・ ただでさえ財源がなく、医療費も圧迫してくるのに、若者へのチャレンジ支援が本当に実現できるのか。これならば市民復興税等を創設するしかない。というように、喧嘩を売るスタイルで市民に意見を募ればよいと思う。クレームが一番率直な意見だから。まずは市政側の目標と課題点を提示して、クレームせざるを得ないような挑発的な文章で意見を募る方が評判になるのでは。経済の状態と人口はリンクしているので、まずは経済を活性化させるのが大事。一番は企業誘致。秋田市よりかなり法人税・住民税を安くする。これは秋田市にある企業を奪うのが目的。もともと秋田に来ようと思っている企業を他市から奪うのもある。企業誘致に関しては大曲地区が一番効果がある。これと同時に進行で大仙市内のガソリンスタンドに補助金を出し、「流通業者に限り」、ガソリン価格を常に他市より安くするのがよい。秋田が経済的に発展するためには秋田県民の足である車を優遇するのがよいと思う。上記の案で何か参考にできるものがあれば幸いです。
追記) 広告・宣伝というのはものすごく大事です。大仙市のふるさと納税の返礼品も、きちんとマーケティング会社に依頼して宣伝したほうが良いです。お米はすでに有名ですが、お酒に関しては知らない人がほとんどでは。ネット広告が一番手っ取り早いので、検討するのも大いにアリかと。(20代／男性／協和／独身)

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 大仙市に住んでいてよかったと思うことを伺ったところ、「自然が豊か」の割合が最も高く、次いで「買い物などの日常生活が便利」となっており、自然との調和が図られた日常生活に便利なまちと認識されているものと思われる。また、結婚別で見ると、全体では8番目に回答割合の高い「子育て支援が充実している」が、既婚者では3番目に高くなっており、独身者と比較しても高い割合となっている。子育て関係の支援については、県内の自治体と比較の上、令和2年度からさらなる充実に努めており、その結果が現れているものと考えられる。

一方で、大仙市に住んでいて困ったと思うこと（悪い点）を伺ったところ、結婚別で見ると、既婚者では「子どもの遊び場や公園などが充実していない」の割合が最も高く、さらに、「子育て支援が充実していない」も含め、独身者と比べて割合が高くなっている。現状の子育てに関する支援については、満足してはいるものの、さらなる充実に望んでいることが伺える。子育てに関する支援は若い世代が最も重要視している分野の一つであることから、子育て世帯等のニーズを把握しながら、さらなる充実に向けた検討が必要である。

- 理想の就職方法について伺ったところ、「会社など事業所の被雇用者として働く」の割合が約8割で最も高くなっているが、「自ら起業して、事業主として働く」も一定数おり、その方に起業の実施状況を伺ったところ、「起業するかどうか悩んでいる」の割合が最も高くなっている。悩みについては、資金的な問題や周囲の理解など、様々な要因が考えられるが、商工団体と連携した伴走支援の充実や、現在実施している創業支援制度の周知を一層強化するとともに、所要の拡充についても検討を行う必要がある。
- 理想の雇用形態について伺ったところ、「正社員・職員として会社等に所属しながら、副業も行う」が27.2%となっているほか、理想の働き方では、「勤務時間を選べる環境で会社等に出勤し働く」が46.0%、「リモートワークなどで自宅や地元、地方で働く」が12.6%となっており、多様な雇用形態や働き方を理想的と考える方が多いことが伺える。働き方改革や新型コロナウイルス感染症の影響によるデジタル化の加速化に伴い、こうした雇用形態や

働き方が徐々に浸透してきていることも踏まえ、行政としても働きやすい職場環境の整備に向けた支援のあり方について検討が必要であると考えます。

- 市のまちづくりや地域の活動に関して意見を述べる機会や参加する機会があれば参加したいか伺ったところ、「すでに参加している」「積極的に参加したい」「参加したい」を合わせた割合は、意見を述べる機会では27.5%、まちづくり活動（参加する機会）では43.2%となっており、意見を述べる機会よりまちづくり活動へ参加したいと考えている方が多い結果となっている。

また、具体的にどのような分野で参加しているか、または参加したいか伺ったところ、どちらも「観光」が突出しており、次いで「地域活性化」「スポーツ」の順であった。まちづくりの主役であり主体である市民との協働のまちづくりを進めるため、様々な場面において、参加意欲のある市民の方が意見を述べる機会や、まちづくり活動へ参加する機会を創出していく必要がある。一方で、参加したくないと回答した方も含め、広く意見を伺い、市政へ反映させることも重要であり、このようなアンケート調査なども、より良い市政運営を行っていく上で重要な取組であると捉えている。

- 今後チャレンジしてみたい、または新たに始めてみたいと思うことについて伺ったところ、「希望する職業に就くための資格取得」の割合が突出して高い結果となっている。また、そのチャレンジや新たなことを始めるにあたり、不安なことや障壁となると考えられるものについて伺ったところ、「知識・ノウハウ・経験不足」に次いで、「資金不足」「情報不足」が続いている。現在実施している資格取得支援制度の周知を一層強化するとともに、所要の拡充についても検討が必要であり、資格取得に関する情報発信の強化も必要であると考えます。
- 若い世代のチャレンジを応援するための支援や取組としてどのようなものが必要か伺ったところ、「地域の理解促進や資金提供など若い世代がチャレンジしやすい環境の整備」「若い世代のチャレンジを支援する新しい補助制度等の創設」の順となっており、この2項目が突出していることから、既存の関連施策の見直しやチャレンジしやすい環境づくりに加え、必要に応じて新しい支援制度の創設なども検討していく必要がある。
- こうしたことを踏まえ、市民や企業の皆さんの理解と協力を得ながら、夢や希望、目標に向かってチャレンジする若い世代を「地域を挙げて応援する」環境づくりを進めるとともに、若い世代が特に必要としている子育てや起業等の支援の充実などに取り組み、若い世代が住み続けたいと思うような魅力あるまちづくりを進めていく。若い世代のチャレンジへ支援することは若い世代の地元定着につながるため、若い世代の声を市政に反映させながら、市が直面する人口減少や少子高齢化、地域の担い手不足、活力の衰退などの解決に向け、着実に取組を進めていく必要がある。